

(様式1)

第1期中期目標期間 業務実績報告書

(平成21年4月1日～平成26年3月31日)

平成26年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間	1
2 業務実績全般	1
(1) 機構全体	1
(2) 総合病院	24
(3) こころの医療センター	32
(4) こども病院	38
3 項目別実績	45
中期計画 第1－1 医療の提供	45
〃 第1－2 医療に関する調査及び研究	54
〃 第1－3 医療に関する技術者の研修	57
〃 第1－4 医療に関する地域への支援	58
〃 第1－5 災害等における医療救護	62
〃 第1－6 中期目標達成のために不可欠な人材の確保及び育成	63
〃 第2－1 簡素で効率的な組織づくり	66
〃 第2－2 効率的な業務運営の実現	66
〃 第2－3 事務部門の生産性の向上	68
〃 第2－4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	68
〃 第2－5 就労環境の向上	69
〃 第3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	71
(参考) 用語解説	72

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



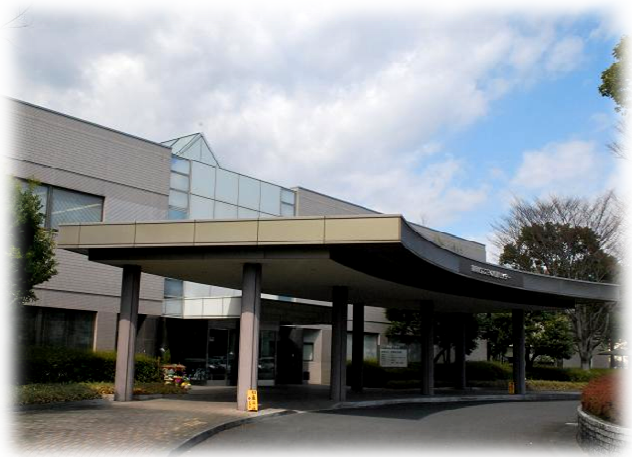
静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

当該中期目標期間における業務実績報告

1 対象期間

平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間

2 業務実績全般

(1) 機構全体

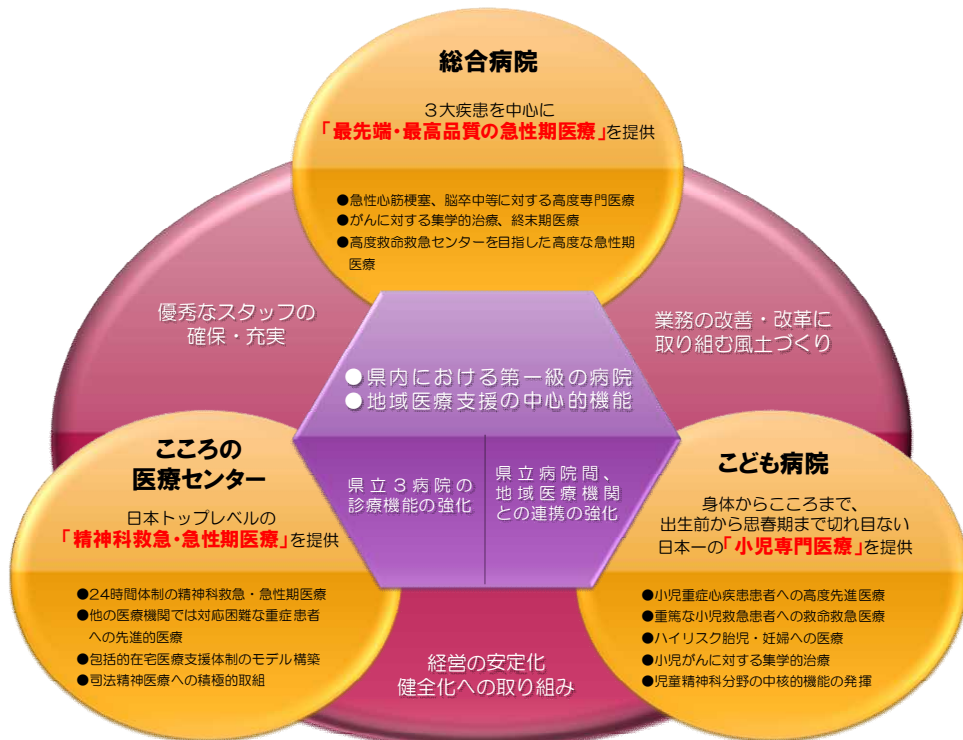
ア 総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んだ。

第1期中期目標期間（以下「今期」という。）の経営状況（5年間累計、3病院計税込）は、入院では、総合病院で延患者数が今期の各年度中期計画累計（以下「中期累計」という。）を上回ったほか、H22、H24の診療報酬改定による効果及び積極的な新規施設基準の取得等により、3病院とも患者1人1日当たり単価が中期累計を上回った。また、外来では、総合病院及びこども病院で延患者数が中期累計を上回ったほか、単価は総合病院及びこころの医療センターで中期累計を上回った。今期の収支は、経常収支累計が10,186百万円余（経常収支比率105.8%）、総収支累計が8,443百万円余となり、中期累計を大幅に上回るとともに、今期中すべての年度で3病院とも黒字決算を達成した。

引き続き、本機構は、救急医療等を始めとした高度で専門的な医療の提供及び地域医療の支援に重点を置くとともに、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- 総合病院は、今期の延患者数は第1期中期目標期間中の各年度計画の累計（以下「年度累計」）を上回り(+4,084人)、患者1人1日当り入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）も年度累計を上回った(+76円)ことから、年度累計と比べると収入は大幅に増加した。
- こころの医療センターは、今期の延患者数は年度累計を下回り(▲6,494人)、入院単価も年度累計を下回ったため(▲399円)、年度累計と比べると収入は減少した。
- こども病院は、今期の延患者数は年度累計を下回り(▲10,998人)、入院単価も年度累計を上回った(+142円)ことから、年度累計と比べると入院収益は減少した。

業務量及び業務実績【入院】(税込)

(単位：人、%、円)

区分	H21		H22		H23		H24		H25		5年間累計		
	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	
入院延患者数	総合	206,881 (206,881)	208,226	211,308 (211,407)	221,754	217,153 (214,228)	217,419	216,609 (215,933)	211,110	217,287 (218,196)	214,813	1,069,238 (1,066,645)	1,073,322
	こころ	53,874 (53,874)	55,850	56,502 (56,502)	55,307	58,406 (59,130)	55,207	57,991 (59,130)	58,140	58,681 (59,130)	54,456	285,454 (287,766)	278,960
	こども	82,172 (82,172)	76,305	78,582 (82,172)	79,028	82,032 (83,071)	73,542	74,299 (83,071)	76,046	76,969 (83,606)	78,135	394,054 (414,092)	383,056
	計	342,927 (342,927)	340,381	346,392 (350,081)	356,089	357,591 (356,429)	346,168	348,899 (358,134)	345,296	352,937 (360,932)	347,404	1,748,746 (1,768,503)	1,735,338
病床利用率	総合	87.0 (87.0)	87.9	89.0 (89.0)	93.6	91.4 (90.0)	92.4	91.7 (91.0)	90.3	92.3 (92.0)	91.4	90.3 (89.8)	91.1
	こころ	82.0 (82.0)	85.0	86.0 (86.0)	86.3	88.7 (90.0)	86.7	88.3 (90.0)	88.5	89.3 (90.0)	82.9	86.9 (87.6)	85.9
	こども	80.7 (80.7)	74.9	77.2 (80.7)	80.1	80.3 (81.4)	73.9	73.0 (81.6)	77.4	75.6 (82.1)	81.1	77.4 (81.3)	77.5
	計	84.5 (84.5)	84.1	85.5 (86.4)	89.0	88.1 (87.7)	86.7	86.3 (88.4)	86.8	87.5 (89.1)	87.4	86.4 (87.2)	86.8
1人1日当り入院単価	総合	51,701 (51,701)	53,135	59,202 (52,817)	57,962	60,212 (53,866)	59,156	61,069 (54,670)	62,232	63,387 (55,484)	63,726	59,185 (53,732)	59,261
	こころ	19,512 (19,512)	19,787	21,431 (19,707)	19,885	22,576 (19,904)	21,712	22,541 (19,904)	22,405	23,848 (19,904)	24,365	22,026 (19,792)	21,627
	こども	76,410 (76,410)	71,293	76,238 (76,410)	80,540	80,830 (77,777)	85,934	86,559 (77,777)	86,908	98,009 (78,577)	93,152	83,428 (77,396)	83,570
	計	52,565 (52,565)	51,734	56,906 (53,011)	57,059	58,795 (53,805)	58,874	60,093 (54,290)	60,960	64,364 (55,004)	64,174	58,582 (53,750)	58,577

※患者1人1日当り単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。

※病床利用率は稼働病床で算定。（H25は、総合620床、こころ180床、こども264床）。

5年間累計欄は、5年間の平均値。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、今期の延患者数は年度累計を大幅に上回り (+43,746 人) で、患者 1 人 1 日当り外来単価 (以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数) も年度累計を下回った (△61 円)。外来患者数は外来のキャパシティを超過気味なので、逆紹介を積極的に推進しているところである。
- ・ こころの医療センターは、今期の延患者数は年度累計を下回った (▲6,077 人) が、外来単価は年度累計を若干上回った (+188 円)。
- ・ こども病院は、今期の延患者数は年度累計を上回り (+13,254 人)、外来単価も今期の年度累計を上回った (+686 円) ことから、年度累計と比べると外来収益は増加した。

業務量及び業務実績【外来】(税込)

(単位：人、%、円)

区分	H21		H22		H23		H24		H25		5年間累計		
	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	年度計画 (中期計画)	実績	
外来延患者数	総合	380,000 (380,000)	374,166	370,472 (380,000)	393,226	388,068 (380,000)	401,041	392,938 (380,000)	406,237	406,173 (380,000)	406,727	1,937,651 (1,900,000)	1,981,397
	こころ	46,000 (46,000)	44,492	46,000 (46,000)	43,254	43,432 (46,000)	41,682	42,687 (46,000)	39,167	37,695 (46,000)	41,142	215,814 (230,000)	209,737
	こども	86,056 (86,056)	90,285	88,151 (86,413)	91,961	90,899 (86,767)	94,704	92,836 (87,124)	97,771	104,827 (86,767)	101,302	462,769 (433,127)	476,023
	計	512,056 (512,056)	508,943	504,623 (512,413)	528,441	522,399 (512,767)	537,427	528,461 (513,124)	543,175	548,695 (512,767)	549,171	2,616,234 (2,563,127)	2,667,157
1人1日当り 外来単価	総合	14,792 (14,792)	15,186	16,197 (15,384)	15,524	15,693 (15,999)	16,003	17,190 (16,639)	16,598	16,642 (17,304)	16,873	16,115 (16,024)	16,054
	こころ	5,674 (5,674)	5,581	5,609 (5,674)	5,818	5,807 (5,674)	5,855	5,351 (5,674)	6,057	6,035 (5,674)	6,061	5,686 (5,674)	5,874
	こども	14,510 (14,510)	13,116	13,387 (14,800)	13,824	12,636 (15,096)	13,537	13,036 (15,398)	14,171	12,608 (15,706)	14,685	13,201 (15,104)	13,887
	計	13,925 (13,925)	13,979	14,741 (14,414)	14,434	14,339 (14,920)	14,781	15,504 (15,445)	15,401	15,142 (15,990)	15,660	14,739 (14,939)	14,866

※患者 1 人 1 日当たり単価は、税込金額 (調定額ベースで算定)。

<参考資料>

(単位：日、%)

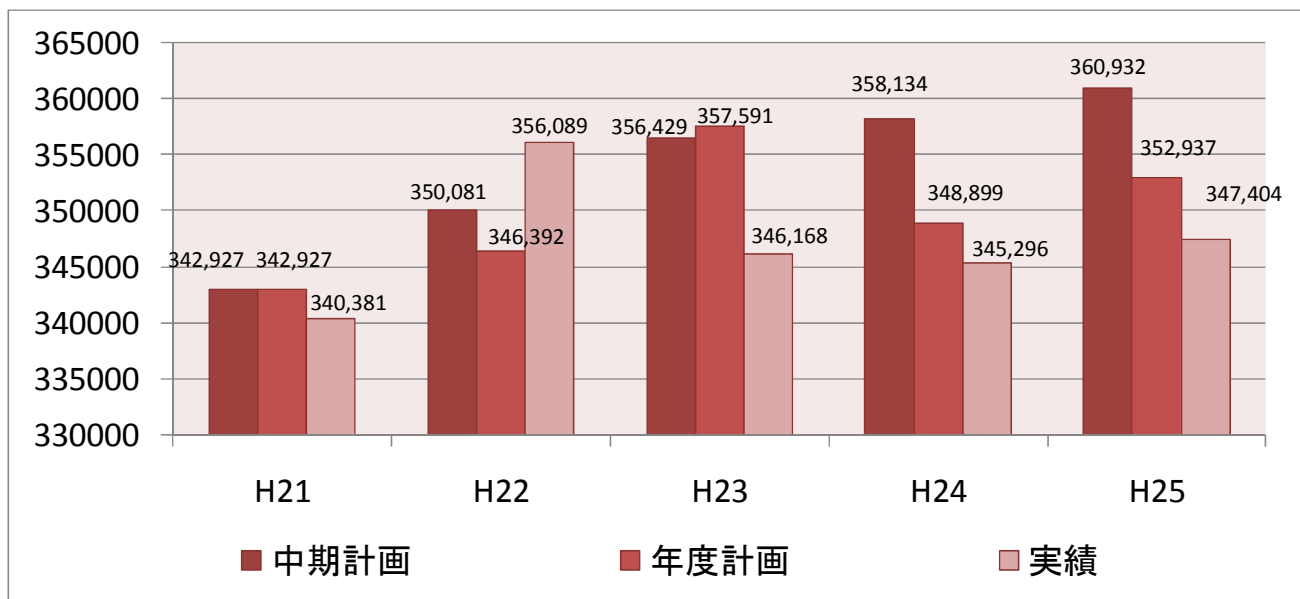
区分	H21	H22	H23	H24	H25	備考
平均在院 日数	総合	12.5	12.6	12.4	12.4	12.3
	こころ	100.1	107.1	111.7	100.9	108.2
	こども	12.6	10.9	10.2	11.0	11.2
紹介率	総合	81.2	82.1	81.5	81.1	82.1
	こころ	57.4	54.8	58.0	54.4	49.6
	こども	87.9	96.0	94.6	94.1	94.8
逆紹介率	総合	72.0	93.8	105.1	112.1	106.7
	こころ	26.8	26.1	48.4	30.2	29.8
	こども	30.7	31.5	39.1	39.3	49.9

※平均在院日数は、総合及びこどもは一般病床分 (こどもはNICU、GCU、MFICU、精神科除く) で算定。こころは医療観察法病床を除いて算定。

患者数の推移 (21年度実績～25年度実績)

入院延患者数 (3病院計)

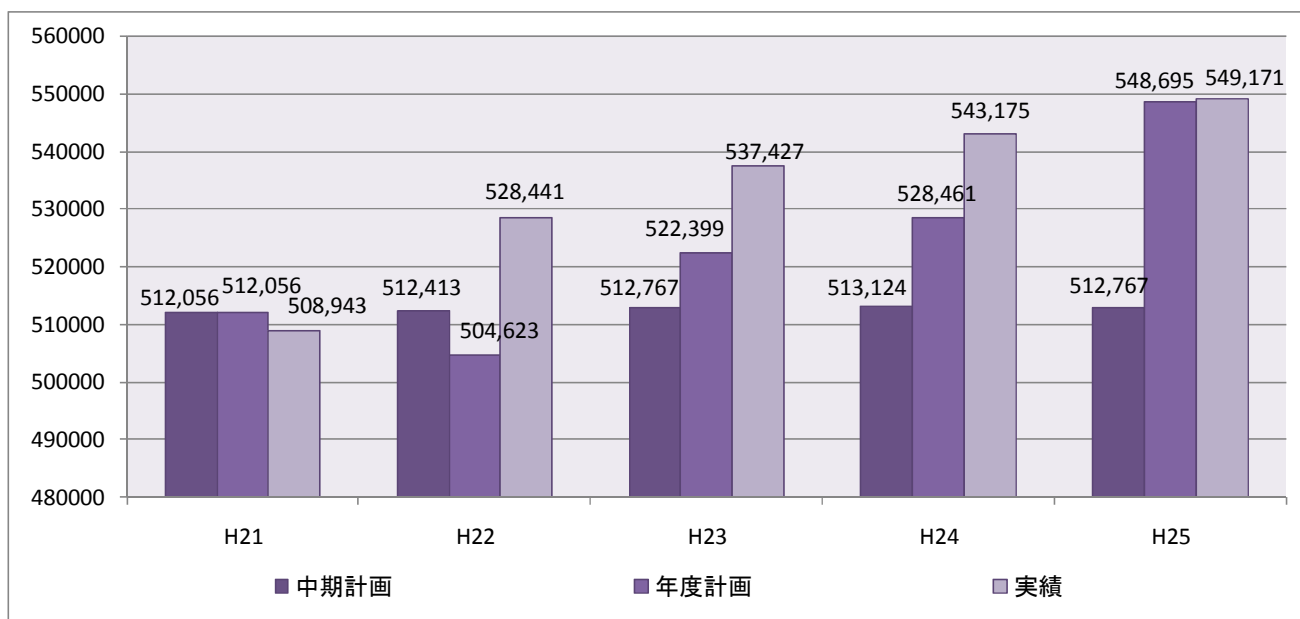
(単位：人)



- ・今期の入院延患者数は、H22を除き中期計画を下回った。

外来延患者数 (3病院計)

(単位：人)



- ・今期の外来延患者数は、総合病院で大幅に増加していることから、H21を除き中期計画を上回った。

(ウ) 収支実績 (税込)

- ・総収支累計は、8,443,105千円の利益となり、年度累計よりも**9,151,283**千円上回った。
- ・経常収支累計は、10,186,356千円の経常利益となり、年度累計よりも**8,803,384**千円上回り、5年間累計の経常収支比率は、100%以上(105.8%)を達成した。
- ・収益累計は、診療報酬改定に合わせて施設基準取得等による単価UPを図ったことにより、年度累計よりも**257,003**千円増収となった。
- ・費用累計は、契約方法の見直しや経費節減努力等により、各年度で年度計画を下回り、年度累計よりも8,894,280千円の減少となった。
- ・5年間累計の長期借入金の額は8,189,000千円、償還金の額は14,579,850千円、建設改良費の累計は10,117,654千円となった。

①収益的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収益	営業 収益	医業収益	25,176,541	28,437,486	28,917,782	29,999,998	31,437,580	143,969,386
		運営費負担金収益	7,036,939	6,763,994	6,980,172	7,015,059	7,054,048	34,850,212
		資産見返負債戻入	245,130	291,684	164,577	188,979	180,661	1,071,031
		その他営業収益	160,252	372,360	200,814	195,976	166,169	1,095,571
		小計	32,618,861	35,865,524	36,263,345	37,400,011	38,838,457	180,986,198
	営業外 収益	運営費負担金収益	357,276	344,329	319,828	284,941	245,952	1,552,326
		その他営業外収益	325,114	314,862	378,427	403,490	416,598	1,838,491
		小計	682,390	659,191	698,255	688,431	662,550	3,390,817
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—	—
	収益計 （予算額※＜年度計画＞） （増減額）		33,301,251 (33,750,938) (▲449,687)	36,524,715 (35,639,052) (885,663)	36,961,600 (37,151,389) (▲189,789)	38,088,442 (37,857,860) (230,582)	39,501,007 (39,720,773) (▲219,766)	184,377,015 (184,120,012) (257,003)
費用	営業用 費用	医業費用	31,685,079	33,516,534	33,557,272	34,267,616	35,720,974	168,747,474
		一般管理費	351,389	340,510	330,202	340,118	346,854	1,709,073
		小計	32,036,467	33,857,044	33,887,474	34,607,734	36,067,828	170,456,548
	営業外 費用	財務費用	630,750	596,763	553,401	488,789	419,933	2,689,636
		その他営業外費用	223,294	218,913	208,925	183,753	209,591	1,044,476
		小計	854,044	815,677	762,326	672,541	629,524	3,734,112
	臨時損失	臨時損失	225,697	369,390	196,149	894,416	57,598	1,743,251
	予備費	予備費	—	—	—	—	—	—
	費用計 （予算額※＜年度計画＞） （増減額）		33,116,209 (34,674,273) (▲1,558,064)	35,042,111 (36,034,794) (▲992,683)	34,845,949 (37,195,840) (▲2,349,891)	36,174,691 (37,659,247) (▲1,484,556)	36,754,950 (39,264,036) (▲2,509,086)	175,933,910 (184,828,190) (▲8,894,280)
	総収支 （予算額※＜年度計画＞） （増減額）		185,043 (▲923,335) (1,108,378)	1,482,603 (▲395,742) (1,878,345)	2,115,652 (▲44,451) (2,160,103)	1,913,751 (198,613) (1,715,138)	2,746,056 (456,737) (2,289,319)	8,443,105 (▲708,178) (9,151,283)
経常収支 （予算額※＜年度計画＞） （増減額）		410,740 (▲609,504) (1,020,244)	1,851,994 (24,107) (1,827,887)	2,311,801 (256,734) (2,005,067)	2,808,167 (1,233,681) (1,574,486)	2,803,655 (677,954) (2,125,701)	10,186,356 (1,582,972) (8,603,384)	
経常収支比率		101.2%	105.3%	106.7%	108.0%	107.6%	105.8%	

中期計画	経常収支	▲ 845,060	▲ 736,181	81,039	813,548	1,662,718	976,064
	経常収支比率	97.6%	97.9%	100.2%	102.3%	104.8%	100.6%

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある（以下同様）。

※予算額は、各年度最終予算額（以下同様）。

②資本的収支（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収入	資本 収入	長期借入金	2,152,000	2,204,000	1,472,000	1,061,000	1,300,000	8,189,000
		長期貸付金回収額	—	—	—	800	4,600	5,400
		その他収入	86,038	323,880	233,950	139,576	14,395	797,838
		計	2,238,038	2,527,880	1,705,950	1,201,376	1,318,995	8,992,239
支出	資本 支出	建設改良費	2,417,061	2,700,144	1,881,538	1,358,947	1,759,964	10,117,654
		償還金	2,767,220	3,439,046	3,353,669	2,491,812	2,528,103	14,579,850
		長期貸付金	—	—	—	50,900	73,400	124,300
		計	5,184,280	6,139,190	5,235,207	3,901,659	4,361,468	24,821,804
総収支 （予算額※＜年度計画＞） （増減額）		▲ 2,946,242 (▲2,766,490) (▲179,752)	▲ 3,611,310 (▲3,441,820) (▲169,490)	▲ 3,529,256 (▲3,617,365) (88,109)	▲ 2,700,284 (▲2,949,071) (248,787)	▲ 3,042,473 (▲3,271,961) (229,488)	▲15,829,566 (▲16,046,707) (217,141)	

(工) 病院別収支実績

【総合病院】

① 収益的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計	
収益	営業益	医業収益	17,212,025	19,434,543	19,807,083	20,453,728	21,058,206	97,965,583	
		運営費負担金収益	2,458,665	2,253,305	2,450,185	2,466,111	2,494,769	12,123,035	
		資産見返負債戻入	178,828	177,957	106,260	119,114	110,238	692,397	
		その他営業収益	93,413	167,807	83,834	83,087	77,688	505,829	
		小計	19,942,931	22,033,612	22,447,362	23,122,039	23,740,900	111,286,845	
	営業外収益	運営費負担金収益	166,281	158,499	145,852	129,926	101,268	701,826	
		その他営業外収益	223,449	235,000	278,601	305,231	310,758	1,353,039	
		小計	389,730	393,499	424,453	435,157	412,026	2,054,865	
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—	—	
	収益計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			20,332,662 (19,929,379) (403,283)	22,427,111 (22,011,028) (416,083)	22,871,815 (22,713,709) (158,106)	23,557,196 (23,618,378) (▲61,182)	24,152,926 (24,203,154) (▲50,228)	113,341,710 (112,475,648) (866,062)
費用	営業費用	医業費用	19,617,877	20,744,684	20,791,513	21,412,090	22,079,112	104,645,274	
		一般管理費	112	—	—	—	—	112	
		小計	19,617,989	20,744,684	20,791,513	21,412,090	22,079,112	104,645,386	
	営業外費用	財務費用	300,594	282,540	260,673	231,717	177,473	1,252,997	
		その他営業外費用	133,635	136,486	135,251	121,979	132,463	659,815	
		小計	434,229	419,026	395,924	353,696	309,936	1,912,811	
	臨時損失	臨時損失	122,324	161,912	50,946	526,101	17,401	878,684	
	予備費	予備費	—	—	—	—	—	—	
	費用計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			20,174,541 (20,280,993) (▲106,452)	21,325,622 (21,641,776) (▲316,154)	21,238,382 (21,378,876) (▲140,494)	22,291,887 (22,439,005) (▲147,118)	22,406,449 (23,611,975) (▲1,205,526)	107,436,882 (109,352,625) (▲1,915,743)
	総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			158,121 (▲351,614) (509,735)	1,101,489 (369,252) (732,237)	1,633,433 (1,334,833) (298,600)	1,265,309 (1,179,373) (85,936)	1,746,477 (591,179) (1,155,298)	5,904,829 (3,123,023) (2,781,805)
経常収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			280,444 (▲206,914) (487,358)	1,263,401 (531,359) (732,042)	1,684,379 (1,408,576) (275,803)	1,791,410 (1,735,755) (55,655)	1,763,878 (686,921) (1,076,957)	6,783,512 (4,155,697) (2,627,815)	
経常収支比率			101.4%	106.0%	107.9%	108.2%	107.9%	106.3%	

② 資本的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収入	資本金収入	長期借入金	1,430,000	1,466,000	777,000	625,000	870,000	5,168,000
		その他収入	—	284	89,184	139,576	12,693	241,737
		計	1,430,000	1,466,284	866,184	764,576	882,693	5,409,737
支出	資本支出	建設改良費	1,607,164	1,557,635	922,367	901,779	1,323,173	6,312,118
		償還金	1,798,942	2,404,540	2,327,544	1,507,289	1,564,403	9,602,717
		長期貸付金	—	—	—	—	—	—
		計	3,406,106	3,962,174	3,249,911	2,409,068	2,887,576	15,914,835
総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			▲1,976,106 (▲1,800,127) (▲175,979)	▲2,495,891 (▲2,464,203) (▲31,688)	▲2,383,727 (▲2,400,562) (16,835)	▲1,644,492 (▲1,937,514) (293,022)	▲2,004,883 (▲2,138,542) (133,659)	▲10,505,099 (▲10,740,948) (235,849)

建設改良費のうち主なもの (H21~H25 累計)

器械備品等購入事業 (医療機器購入等) 2,036,780 千円、県立病院施設整備事業 (外来改修工事、救命救急センター整備等) 778,087 千円、総合病院施設整備事業 (病棟改修工事等) 699,397 千円、本館リニューアル事業 (循環器病センター整備工事等) 992,191 千円、医師看護師宿舍整備事業 (保育所建築工事等) 254,841 千円

【こころの医療センター】

① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計	
収益	営業収益	医業収益	1,381,686	1,359,220	1,450,885	1,547,231	1,584,867	7,323,889	
		運営費負担金収益	1,115,050	1,023,393	1,108,781	1,115,270	1,122,107	5,484,601	
		資産見返負債戻入	32,980	69,825	32,517	30,168	29,840	195,331	
		その他営業収益	3,249	96,304	10,828	11,652	2,426	124,459	
		小計	2,532,965	2,548,742	2,603,011	2,704,321	2,739,241	13,128,280	
	営業外収益	運営費負担金収益	82,813	77,205	70,972	64,483	57,646	353,119	
		その他営業外収益	25,073	22,448	37,051	25,950	24,383	134,905	
		小計	107,886	99,653	108,023	90,433	82,029	488,024	
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—	—	
	収益計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			2,640,851 (2,556,785) (84,066)	2,648,395 (2,782,552) (▲134,157)	2,711,034 (2,818,756) (▲107,722)	2,794,754 (2,777,077) (17,677)	2,821,270 (2,873,338) (▲52,068)	13,616,305 (13,808,508) (▲192,203)
費用	営業費用	医業費用	2,302,843	2,357,087	2,328,427	2,321,772	2,322,090	11,632,219	
		一般管理費	6	—	—	—	—	6	
		小計	2,302,849	2,357,087	2,328,427	2,321,772	2,322,090	11,632,225	
	営業外費用	財務費用	128,348	117,007	107,550	97,711	87,295	537,912	
		その他営業外費用	18,387	18,264	9,461	5,883	17,930	69,925	
		小計	146,735	135,271	117,012	103,594	105,225	607,837	
	臨時損失	臨時損失	63	90,149	5,002	74,583	649	170,446	
	予備費	予備費	—	—	—	—	—	—	
	費用計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			2,449,648 (2,464,555) (▲14,907)	2,582,507 (2,617,681) (▲35,174)	2,450,441 (2,515,330) (▲64,889)	2,499,948 (2,569,964) (▲70,016)	2,427,964 (2,614,771) (▲186,807)	12,410,508 (12,782,301) (▲371,793)
	総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			191,203 (92,230) (98,973)	65,888 (164,871) (▲98,983)	260,593 (303,426) (▲42,833)	294,806 (207,113) (87,693)	393,306 (258,567) (134,739)	1,205,796 (1,026,207) (179,589)
経常収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			191,266 (93,020) (98,246)	156,038 (255,261) (▲99,223)	265,595 (311,808) (▲46,213)	369,389 (285,460) (83,929)	393,955 (267,027) (126,928)	1,376,243 (1,212,576) (163,667)	
経常収支比率			107.8%	106.3%	110.9%	115.2%	116.2%	111.2%	

② 資本的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収入	資本収入	長期借入金	30,000	32,000	49,000	28,000	50,000	189,000
		その他収入	20,137	323,128	—	—	192	343,457
		計	50,137	355,128	49,000	28,000	50,192	532,457
支出	資本支出	建設改良費	55,304	397,416	65,194	29,271	52,930	600,115
		償還金	371,777	373,527	395,349	402,516	414,219	1,957,389
		長期貸付金	—	—	—	—	—	0
		計	427,081	770,943	460,544	431,787	467,150	2,557,505
総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			▲376,944 (▲369,862) (▲7,082)	▲415,815 (▲383,579) (▲32,236)	▲411,544 (▲419,425) (7,881)	▲403,787 (▲412,917) (9,130)	▲416,958 (▲426,361) (9,403)	▲2,025,048 (▲2,012,144) (▲12,904)

建設改良費のうち主なもの (H21~H25 累計)

器械備品等購入事業(医療機器購入等) 99,397千円、医療観察法整備事業(病棟増床改修建築工事等) 346,911千円

【こども病院】

① 収益的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計	
収益	営業益	医業収益	6,582,831	7,643,722	7,659,815	7,999,039	8,794,507	38,679,914	
		運営費負担金収益	3,463,224	3,487,296	3,421,206	3,433,678	3,437,172	17,242,576	
		資産見返負債戻入	33,321	43,902	25,800	39,697	40,582	183,302	
		その他営業収益	63,589	108,249	106,151	89,458	74,470	441,917	
		小計	10,142,965	11,283,170	11,212,972	11,561,872	12,346,731	56,547,709	
	営業外収益	運営費負担金収益	108,182	108,625	103,004	90,532	87,038	497,381	
		その他営業外収益	76,592	57,030	62,713	72,309	81,421	350,065	
		小計	184,774	165,655	165,717	162,841	168,459	847,446	
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—	—	
	収益計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			10,327,739 (11,264,774) (▲937,035)	11,448,824 (10,845,472) (603,352)	11,378,689 (11,618,924) (▲240,235)	11,724,713 (11,443,905) (280,808)	12,515,190 (12,625,781) (▲110,591)	57,395,155 (57,798,856) (▲403,701)
費用	営業費用	医業費用	9,764,359	10,414,764	10,437,332	10,533,754	11,319,772	52,469,982	
		一般管理費	58	—	—	—	—	58	
		小計	9,764,417	10,414,764	10,437,332	10,533,754	11,319,772	52,470,039	
	営業外費用	財務費用	201,808	197,216	185,178	159,360	155,166	898,727	
		その他営業外費用	61,969	63,849	64,249	55,420	58,688	304,175	
		小計	263,777	261,064	249,427	214,780	213,854	1,202,902	
	臨時損失	臨時損失	103,310	117,329	140,201	293,732	39,548	694,120	
	予備費	予備費	—	—	—	—	—	—	
	費用計 (予算額※<年度計画>) (増減額)			10,131,504 (10,286,667) (▲155,163)	10,793,157 (10,883,139) (▲89,982)	10,826,959 (10,996,916) (▲169,957)	11,042,267 (11,223,683) (▲181,416)	11,573,174 (12,519,514) (▲946,340)	54,367,061 (55,909,919) (▲1,542,858)
	総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			196,235 (978,107) (▲781,872)	655,667 (▲37,667) (693,334)	551,730 (622,008) (▲70,278)	682,446 (220,222) (462,224)	942,016 (106,267) (835,749)	3,028,094 (1,888,937) (1,139,157)
経常収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			299,545 (1,093,858) (▲794,313)	772,996 (79,652) (693,344)	691,931 (787,152) (▲95,221)	976,179 (527,230) (448,949)	981,564 (172,282) (809,282)	3,722,214 (2,660,174) (1,062,040)	
経常収支比率			103.0%	107.2%	106.5%	109.1%	108.5%	106.9%	

② 資本的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収入	資本収入	長期借入金	692,000	706,000	646,000	408,000	380,000	2,832,000
		その他収入	65,901	468	144,766	—	1,510	212,645
		計	757,901	706,468	790,766	408,000	381,510	3,044,645
支出	資本支出	建設改良費	754,593	745,093	893,976	427,897	383,861	3,205,420
		償還金	596,500	660,980	630,776	582,008	549,481	3,019,744
		長期貸付金	—	—	—	—	—	0
		計	1,351,093	1,406,072	1,524,752	1,009,904	933,342	6,225,164
総収支 (予算額※<年度計画>) (増減額)			▲593,192 (▲596,501) (3,309)	▲699,604 (▲594,038) (▲105,566)	▲733,986 (▲797,378) (63,392)	▲601,904 (▲598,640) (▲3,264)	▲551,832 (▲707,058) (155,226)	▲3,180,519 (▲3,293,615) (113,096)

建設改良費のうち主なもの (H21~H25 累計)

器械備品等購入事業 (医療機器購入等) 1,265,400 千円、県立病院施設整備事業 (耐震工事等) 252,494 千円、医師看護師宿舍整備事業 (医師宿舍建築工事等) 381,182 千円

【本部】

① 収益的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収益	営業収益	医業収益	—	—	—	—	—	—
		運営費負担金収益	—	—	—	—	—	—
		資産見返負債戻入	—	—	—	—	—	—
		その他営業収益	—	—	—	11,779	11,585	23,364
		小計	—	—	—	11,779	11,585	23,364
	営業外収益	運営費負担金収益	—	—	—	—	—	—
		その他営業外収益	—	385	62	0	35	482
		小計	—	385	62	0	35	482
	臨時利益	臨時利益	—	—	—	—	—	—
	収益計		—	385	62	11,779	11,620	23,846
(予算額※<年度計画>)		(—)	(—)	(—)	(18,500)	(18,500)	(37,000)	
(増減額)		(—)	(385)	(62)	(▲6,721)	(▲6,880)	(▲13,154)	
費用	営業費用	医業費用	—	—	—	—	—	0
		一般管理費	351,213	340,510	330,202	340,118	346,854	1,708,897
		小計	351,213	340,510	330,202	340,118	346,854	1,708,897
	営業外費用	財務費用	—	—	—	—	—	—
		その他営業外費用	9,303	315	▲36	471	509	10,561
		小計	9,303	315	▲36	471	509	10,561
	臨時損失	臨時損失	—	—	—	—	—	0
	予備費	予備費	—	—	—	—	—	—
	費用計		360,515	340,825	330,166	340,589	347,363	1,719,459
	(予算額※<年度計画>)		(1,642,058)	(892,198)	(2,304,718)	(1,426,595)	(517,776)	(6,783,345)
(増減額)		(▲1,281,543)	(▲551,373)	(▲1,974,552)	(▲1,086,006)	(▲170,413)	(▲5,063,886)	
総収支		▲360,515	▲340,441	▲330,104	▲328,810	▲335,742	▲1,695,613	
(予算額※<年度計画>)		(▲1,642,058)	(▲892,198)	(▲2,304,718)	(▲1,408,095)	(▲499,276)	(▲6,746,345)	
(増減額)		(1,281,543)	(551,757)	(1,974,614)	(1,079,285)	(163,534)	5,050,732	
経常収支		▲360,515	▲340,441	▲330,104	▲328,810	▲335,742	▲1,695,613	
(予算額※<年度計画>)		(▲1,589,468)	(▲842,165)	(▲2,250,802)	(▲1,314,764)	(▲498,276)	(▲6,445,475)	
(増減額)		(1,228,953)	(501,724)	(1,920,698)	(985,954)	(62,534)	(4,749,862)	
経常収支比率		—	—	—	—	—	—	

② 資本的収支 (税込)

(単位:千円)

区分	款	項	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
収入	資本金収入	長期貸付金回収額	—	—	—	800	4,600	5,400
		計	—	—	—	800	4,600	5,400
支出	資本支出	長期貸付金	—	—	—	50,900	73,400	124,300
		計	—	—	—	50,900	73,400	124,300
総収支		—	—	—	▲50,100	▲68,800	▲118,900	
(予算額※<年度計画>)		—	—	—	(0)	(0)	(0)	
(増減額)		—	—	—	(▲50,100)	▲68,800	(▲118,900)	

- ・ 総合病院の総収支累計は、5,904,828千円の利益となり、年度累計よりも**2,781,805**千円上回った。また、5年間すべてで黒字を達成し、累計の経常収支比率も106.3%となった。これは、急性期医療に重点配分された診療報酬改定の効果により積極的な施設基準の取得（総合入院体制加算、HCU開棟など）を行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ こころの医療センターの総収支累計は、1,205,796千円の利益となり、年度累計よりも**179,589**千円上回った。また、5年間すべてで黒字を達成し、累計の経常収支比率も111.2%となった。これは、医療観察法病床(12床)の整備により入院単価のUPを図ったこと等によるものである。
- ・ こども病院の総収支累計は、3,028,094千円の利益となり、年度累計よりも**1,139,157**千円上回った。また、5年間すべてで黒字を達成し、累計の経常収支比率も106.9%となった。これは、小児医療に重点配分された診療報酬改定の効果により積極的な施設基準の取得（NICUの増床など）を行い、単価UPを図ったこと等によるものである。
- ・ 3病院の資本的収支は、総収支累計が年度累計を**217,141**千円上回り、ほぼ計画どおりの執行となった。主な施設整備は、総合で救命救急センターの整備、レストラン、院内保育所の新築、こころで医療観察法病床(12床)の整備、こどもで電子カルテの導入、NICUの増床、医師宿舎の建替などを実施した。

(オ) 経常収支比率の年度別推移

- ・ 当機構では、中期目標において「業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。」を数値目標として設定しており、経営改善に取り組んできた。
- ・ 今期の経常収支は、5年間累計で10,186,356千円となり中期計画累計の976,064千円を9,210,292千円上回ったことから、経常収支比率は、105.8%となり中期計画累計の100.6%を5.2ポイント上回り、中期目標を達成した。

経常収支の状況（税込）

（単位：千円、%）

区分		H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計
経常 収支	中期計画	▲845,060	▲736,181	81,039	813,548	1,662,718	976,064
	年度計画	▲609,504	24,107	256,734	1,233,681	677,954	1,582,972
	実績	410,740	1,851,994	2,311,801	2,808,167	2,803,655	10,186,356
比率	中期計画	97.6%	97.9%	100.2%	102.3%	104.8%	100.6%
	年度計画	98.0%	99.9%	100.6%	103.4%	101.9%	100.9%
	実績	101.2%	105.3%	106.7%	108.0%	107.6%	105.8%

(カ) 経費削減及び効率化目標との関係

- ・ 当機構では、中期計画において委託費及び材料費の対医業収益比率低減を目標設定しており、数値目標の実現のため、委託費の削減手法として①委託契約の複数年化、②3病院に係る契約の一本化、③業務の包括化 また、材料費の削減手法として①品目の絞込み、②購入単価の見直し、③材料の期限切れの発生防止等 に取り組んできた。
- ・ 委託費については、各年度で中期計画を下回り、H25実績は、中期計画より1.9ポイント、H21より1.4ポイント改善した。材料費についても、H24実績まで各年度で中期計画及び前年度を下回ったが、H25実績は、中期計画より1.0ポイント上回った。

中期計画目標：委託費対医業収益比率（税込）

（単位：千円）

中期計画	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,591,588	26,378,983	27,263,037	27,803,383	28,487,144
委託費	3,253,817	3,243,530	3,233,449	3,233,449	3,233,449	
比率	12.7%	12.3%	11.9%	11.6%	11.4%	
実績	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,176,541	28,437,486	28,917,782	29,999,998	31,437,580
委託費	2,732,999	3,020,151	3,106,827	2,994,453	2,997,832	
比率	10.9%	10.6%	10.7%	10.0%	9.5%	

中期計画目標：材料費対医業収益比率（税込）

（単位：千円）

中期計画	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,591,588	26,378,983	27,263,037	27,803,383	28,487,144
材料費	8,357,340	8,310,998	8,339,746	8,276,137	8,268,962	
比率	32.7%	31.5%	30.6%	29.8%	29.0%	
実績	区分	H21	H22	H23	H24	H25
	医業収益	25,176,541	28,437,486	28,917,782	29,999,998	31,437,580
材料費	7,930,108	8,323,247	8,205,342	8,524,596	9,430,500	
比率	31.5%	29.3%	28.4%	28.4%	30.0%	

(キ) 決算指標 <3病院計>（税込）

区分	項目	H21	H22	H23	H24	H25
収支構造	経常収支比率（%）	101.2	105.3	106.7	108.0	107.6
	医業収支比率（%）	79.5	84.8	86.2	87.5	88.0
	実質収益対経常費用比率（%）	78.8	84.8	85.6	87.3	87.7
収入構造	病床利用率（%）【許可病床】	72.9	76.3	73.9	74.0	74.4
	入院患者1人1日当たり単価（円）	51,734	57,059	58,874	60,960	64,174
	外来患者1人1日当たり単価（円）	13,979	14,434	14,781	15,401	15,660
費用構造	職員給与比率（%）	62.2	57.7	57.7	57.5	57.2
	材料費比率（%）	31.5	29.3	28.4	28.4	30.0

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床利用率は、3病院の許可病床数で算定。

- ・ 収支構造の各指標は、経常収支比率が各年度で中期計画の数値目標である100%を上回り、運営費負担金を除いた営業成績を示す医業収支比率、実質収益対経常費用比率ともに、独法化初年度のH21実績に対して改善した。
- ・ 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価が、各年度とも前年度を上回り、H25実績はH21実績に対して12,440円と大幅に単価UPした。また、外来患者1人1日当たり単価も各年度とも前年度を上回り、H25実績はH21実績に対して1,681円の単価UPとなった。
- ・ 費用構造では、職員給与比率、材料費比率ともにH21実績よりも改善したが、職員数の増に伴う職員給与の増などの影響などについて、第2期中期目標期間も動向に注視していく。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。
- ・ 実質収益対経常費用比率 $(\text{経常収益} - \text{運営費負担金}) \div \text{経常費用} \times 100$
経常費用が経常収益から運営費負担金を引いた実質収益によって、どの程度賄われているかを示す指標である。

【収入構造】

- ・ 病床利用率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (許可病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標で、収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標で、職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(ク) 財務諸表等の推移 (税抜) < 3病院計 >

①貸借対照表の推移

(単位：百万円)

区 分		H21	H22	H23	H24	H25
固定資産	有形固定資産（土地、建物、 器械備品等）、無形固定資産等	54,372	53,837	52,617	50,459	48,985
流動資産	現金及び預金、未収金、有価証券	8,806	8,784	11,278	13,449	16,177
資産合計		63,178	62,622	63,895	63,908	65,161
固定資産	資産見返負債、移行前地方債償還 債務、退職給付引当金等	47,862	47,000	46,287	44,483	43,023
流動負債	未払金、1年以内返済予定移行前 地方債償還債務等	8,313	7,141	7,015	6,920	6,890
負債合計		56,176	54,141	53,302	51,403	49,913
純資産	資本金、資本剰余金、利益剰余金	7,003	8,481	10,593	12,504	15,248
負債純資産合計		63,178	62,622	63,895	63,908	65,161
流動比率(流動資産/流動負債)		105.9%	123.0%	160.8%	194.3%	234.8%

- ・ 流動資産の額は増加し、流動負債の額は減少した。そのため、流動比率（流動資産/流動負債）は105.9%（平成21年度）から、234.8%（平成25年度）まで増加し、独法化以降機構の財務的安全性が高まり、経営改善が実現できた。
- ・ 第1期中期目標期間中に取得した固定資産は、器械備品6,853百万円、建物4,855百万円、ソフトウェア540百万円等であるが、それ以上に除却による資産の減少や、減価償却による資産価値の減少が進んでいるため、固定資産総額は減少した。

②損益計算書の推移

(単位：百万円)

科 目	H21	H22	H23	H24	H25
経常収益 (A)	33,266	36,487	36,924	38,047	39,460
医業収益	25,153	28,414	28,893	29,973	31,411
運営費負担金収益	7,394	7,108	7,300	7,300	7,300
その他経常収益	719	965	731	774	749
経常費用 (B)	32,860	34,641	34,617	35,243	36,660
医業費用	31,669	33,503	33,542	34,252	35,704
一般管理費	351	340	330	340	347
財務費用	631	597	553	489	420
その他経常費用	209	201	191	162	189
経常損益 (A-B)	406	1,846	2,308	2,804	2,801
臨時損益 (C)	△226	△369	△196	△892	△57
当期純損益 (A-B+C)	180	1,478	2,112	1,912	2,744

- ・ 平成25年度の医業収益は31,411百万円で、平成21年度に比べて6,258百万円の増加となったが、平成25年度の医業費用は35,704百万円で、平成21年度に比べて4,035百万円の増加に抑えられたため、経常損益の改善に繋がった。
- ・ 診療報酬改定等の影響もあり、経常損益は独法化以降増加しており、経営改善が実現できた。

③キャッシュ・フロー計算書の推移

(単位：百万円)

科 目	H21	H22	H23	H24	H25
I 業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	4,256	4,776	6,154	5,716	5,908
診療業務活動によるキャッシュ・フロー	9,495	10,426	11,749	11,438	11,410
その他の業務活動によるキャッシュ・フロー	▲4,633	▲5,056	▲5,043	▲5,236	▲5,089
利息の受払額	▲606	▲594	▲551	▲487	▲413
II 投資活動によるキャッシュ・フロー(B)	▲1,945	▲3,624	▲2,198	▲2,864	232
III 財務活動によるキャッシュ・フロー(C)	▲755	▲1,593	▲2,368	▲1,955	▲1,718
IV 資金増加額 (又は減少額) (D=A+B+C)	1,556	▲441	1,588	896	4,422
V 資金期首残高 (E)	1,461	3,107	2,576	4,164	5,060
VI 資金期末残高 (F=D+E)	3,017	2,576	4,164	5,060	9,482

- 平成25年度の診療業務活動によるキャッシュ・フローは、11,410百万円で、平成21年度に比べて1,915百万円の増加となったが、平成25年度のその他の業務活動によるキャッシュ・フローの減少は平成21年度に比べて▲456百万円に抑えられたため、業務活動によるキャッシュ・フローは増加した。

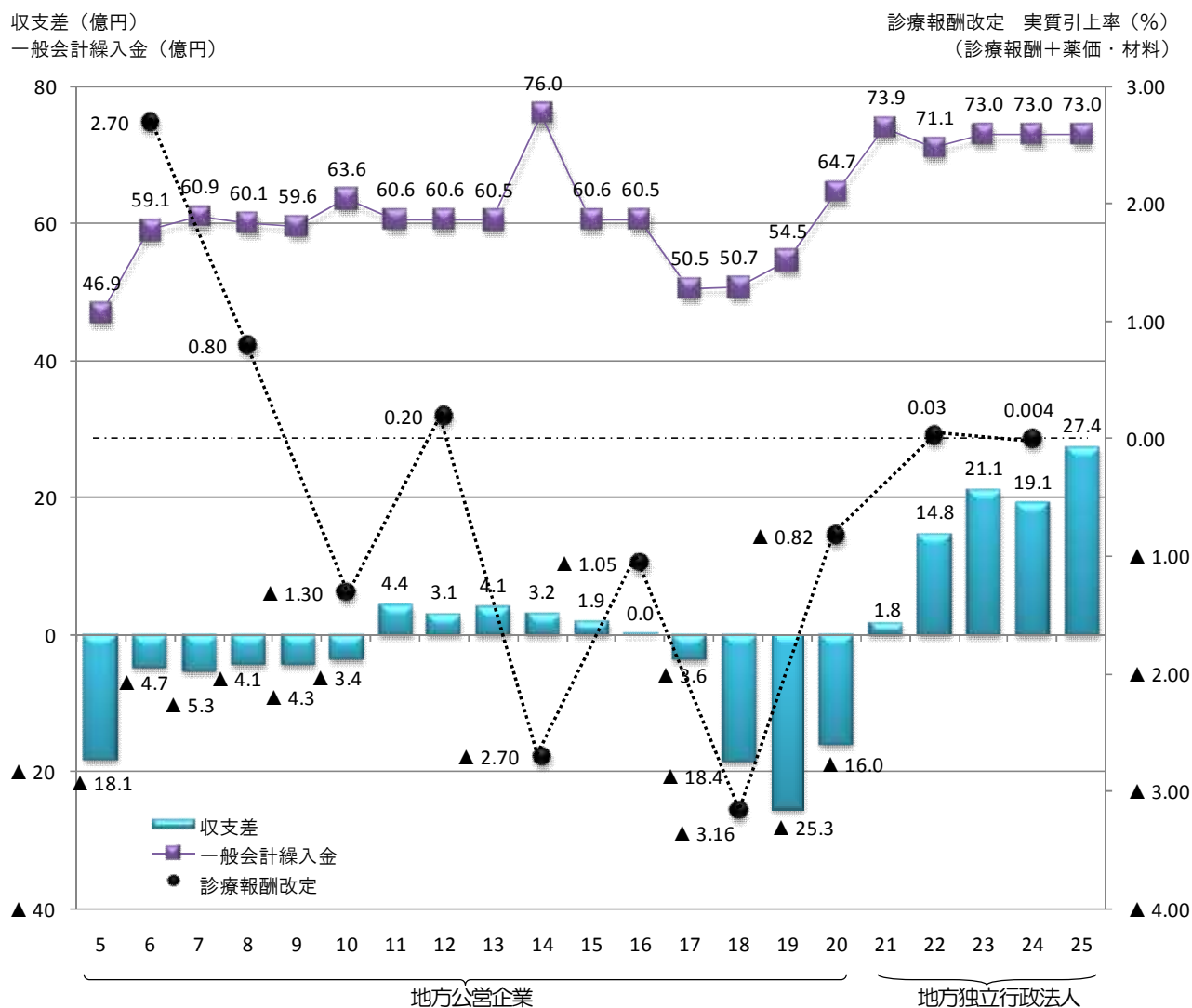
(ケ) 法人が負担する債務の償還状況 <3病院計>

(単位：百万円)

区 分	H21	H22	H23	H24	H25	5年間累計	
新規借入金	2,152	2,204	1,472	1,061	1,300	8,189	
償還額	元 金	2,767	3,439	3,354	2,492	2,528	14,580
	利 息	631	597	553	489	420	2,690
	計	3,398	4,036	3,907	2,981	2,948	17,270
未償還額	37,249	36,014	34,133	32,702	31,474	—	

- 債務の償還については、確実に返済が行えるよう、新規借入の額及び、キャッシュの管理を適切に行った。

(コ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは、繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は、政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は、薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げ一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。

(サ) 職員の状況

① 正規職員 (毎月初め人数累計÷12か月)

(単位：人)

区 分		H21	H22	H23	H24	H25	
総 合	医 師	108	112	113	118	123	
	歯 科 医 師	2	2	2	2	2	
	看 護 師	看 護 師	578	624	620	635	638
		看 護 師	571	617	615	630	634
		准看護師	7	7	5	5	4
	医 療 技 術	137	144	153	166	183	
	事 務	38	40	35	36	38	
	技 能 労 務	-	-	-	-	-	
小 計	863	922	923	957	985		
こ ころ	医 師	12	12	12	14	12	
	歯 科 医 師	-	-	-	-	-	
	看 護 師	看 護 師	102	108	110	112	113
		看 護 師	95	102	106	108	110
		准看護師	7	6	4	4	3
	医 療 技 術	18	23	23	24	25	
	事 務	13	13	13	13	13	
	技 能 労 務	-	-	-	-	-	
小 計	145	156	158	163	162		
こ ども	医 師	81	85	86	87	91	
	歯 科 医 師	1	1	1	1	1	
	看 護 師	看 護 師	383	390	396	400	413
		看 護 師	382	389	395	399	412
		准看護師	1	1	1	1	1
	医 療 技 術	70	76	77	76	80	
	事 務	28	29	27	29	28	
	技 能 労 務	1	1	1	-	-	
小 計	564	582	588	593	613		
本 部	看 護 師	看 護 師	1	1	1	1	1
		看 護 師	1	1	1	1	1
		准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	-	-	1	1	1	
	事 務	19	20	25	24	26	
	技 能 労 務	-	-	-	-	-	
	小 計	20	21	27	26	28	
計	医 師	201	209	211	219	226	
	歯 科 医 師	3	3	3	3	3	
	看 護 師	看 護 師	1,064	1,123	1,127	1,148	1,165
		看 護 師	1,049	1,109	1,117	1,138	1,157
		准看護師	15	14	10	10	8
	医 療 技 術	225	243	254	267	289	
	事 務	98	102	100	102	105	
	技 能 労 務	1	1	1	-	-	
合 計	1,592	1,681	1,696	1,739	1,788		

② 有期職員 (毎月初め人数累計÷12か月)

(単位：人)

区 分		H21	H22	H23	H24	H25
総 合	医 師	57	64	68	73	76
	うち初期研修医	27	24	19	26	31
	看 護 師	40	42	39	46	49
	看 護 師	40	42	39	45	46
	准看護師	-	-	-	1	3
	医 療 技 術	27	23	26	29	27
	事 務	16	20	26	(12)44	104
	補 助 職 員	63	56	63	71	71
小 計	203	205	222	263	327	
こころ	医 師	3	3	3	2	4
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	9	7	13	12	12
	看 護 師	9	7	12	11	10
	准看護師	-	-	1	1	2
	医 療 技 術	4	4	5	3	5
	事 務	8	7	8	8	9
	補 助 職 員	13	14	11	12	12
小 計	37	35	40	37	42	
こども	医 師	33	38	42	43	47
	うち初期研修医	-	-	-	-	-
	看 護 師	9	12	10	13	14
	看 護 師	9	12	10	12	13
	准看護師	-	-	-	1	1
	医 療 技 術	16	13	13	15	16
	事 務	7	10	13	(33)46	49
	補 助 職 員	22	18	21	22	23
小 計	87	91	99	139	149	
本 部	看 護 師	-	-	-	-	-
	看 護 師	-	-	-	-	-
	准看護師	-	-	-	-	-
	医 療 技 術	-	-	-	-	-
	事 務	6	6	7	8	7
	補 助 職 員	1	1	1	1	1
	小 計	7	7	8	9	8
計	医 師	93	105	113	118	127
	うち初期研修医	27	24	19	26	31
	看 護 師	58	61	62	71	75
	看 護 師	58	61	61	68	69
	准看護師	-	-	1	3	6
	医 療 技 術	47	40	44	47	48
	事 務	37	43	54	(45)106	169
	補 助 職 員	99	89	96	106	107
合 計	334	338	369	448	526	

※1 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※2 短期間特別研修医は含まない。

※3 平成24年度の事務の()内は、病棟事務補助(クラーク)、医師事務補助の委託からの振替分で内数。

(シ) 職員の採用状況

- ・ ホームページに試験概要（受験資格や試験日程など）を受験案内の公開に先駆けて掲載を行い、採用試験実施の周知に努めた。
- ・ 看護師及び事務の採用試験については、学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載などにより試験広報を行った。
- ・ 看護師の採用については、定時募集を年5回まで増やし、必要に応じて採用時期の前倒しを行うなど、随時の採用に努めている。採用に努めた結果、平成25年度の看護師の実働数は平成21年度に比べ129人増加しているものの、病院機能向上に伴う必要数の増加に対し、充足に至っておらず、更なる対応が必要である。
- ・ 事務の採用については、エントリーシートや簡易面談による事前審査を行い、試験実施の効率性を確保するとともに、面接回数を増やすなどの人間性を重視した試験方法の見直しを行ってきた。また、採用内定辞退などへの対応として、年度途中の追加募集を行い、職員確保に努めている。
- ・ 医療技術の採用については、定時募集において補欠合格者を設定するなどして、試験合格者の採用内定辞退に備えるなど職員の必要数確保に努めている。しかしながら、その後の辞退や必要数の増などが発生した際には、年度途中の追加募集を柔軟に行い対応している。

職員数の推移（各年度4月1日現在 現員数）

（単位：人）

区分		H21	H22	H23	H24	H25	H26
医師	正 規	202	212	213	219	228	235
	有 期	94	105	116	117	128	138
	計	296	317	329	336	356	373
看 護 師		1,071	1,140	1,139	1,165	1,179	1,221
医 療 技 術		225	243	255	268	289	304
事 務		99	103	103	102	105	109
（うち事務プロパー）		(9)	(23)	(31)	(38)	(47)	(53)
計		1,691	1,803	1,826	1,871	1,929	2,007

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地地診医師を含む。事務には用務員を含む。

※有期医師の契約は、1年更新、短期間特別研修医は除く。

※役員は含まない。（院長を兼務する役員を含む。）

実働数の推移

（単位：人）

区分		平成21年4月1日現在①			平成26年4月1日現在②			増 減 数 ②-①		
		必要数	実働数	過不足	必要数	実働数	過不足	必要数	実働数	過不足
		a	b	b-a	c	d	d-c	e=c-a	f=d-b	f-e
医師	正 規	231	201	▲30	239	235	▲4	8	34	26
	有 期	141	94	▲47	160	138	▲22	19	44	25
	計	372	295	▲77	399	373	▲26	27	78	51
看 護 師		1,058	1,008	▲50	1,143	1,137	▲6	85	129	44
医 療 技 術		234	223	▲11	291	293	2	57	70	13
事 務		100	99	▲1	110	109	▲1	10	10	0
計		1,764	1,625	▲139	1,943	1,912	▲31	179	287	108

※実働数=現員数-休職者数

ウ 特記事項

(ア) 経営改善

- ・ 薬品費や診療材料費については、購入品目数の絞込みに加え、納入卸業者数及び価格交渉の更なる拡充等の改善を進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。
- ・ 契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化など、委託業務契約等の契約手法の見直しを中心に、地方独立行政法人制度のメリットを活かした改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約延長：最長5年間の業務受託が可能）の付与や業務内容が適切ではない場合の契約解除等が課せられている。）の導入などにより、業務の質の向上も図った。

以上のような改善の推進には、事務部門のみではなく医療従事者の理解と協力が不可欠であり、経営改善に向けた取り組みを通じて、職員間にコストと委託業務等の質に関する意識づけが進んだ。

※()は25年度実績のNo（以下同様）

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (薬品費の節減)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一薬品メーカー・一卸業者制度 ・ 納入卸業者数の見直しによる事務効率化及び値引き率の向上 	89 (83)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ アドバイザー・ベンチマークを活用した更なる効率化の推進 ・ 購入から消費までの業務の効率化と業務フローの整備 ・ ジェネリック医薬品の導入促進 	
コスト節減への取組を強化する (診療材料費の節減)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療従事者と協働した同種同効品の絞込み、3病院品目共通化、価格交渉、安価な材料への切替等 ・ 診療材料の品目数の削減 	89 (83)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 購入から消費までの業務の効率化（業務フローの精査） ・ 診療材料の品目数の更なる削減 	
コスト節減への取組を強化する (医療機器購入・保守管理業務の改善)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保守管理委託の3病院一括化・複数年化・同種業務の包括化による保守管理費の節減 	90 (84) (77)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器の集中管理の推進等、適切な管理に係る更なる検討 	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
コスト節減への取組を強化する (委託料等の契約形態による業務改善)	【今期の実績】 ・契約の3病院一括化、複数年化、同種業務の包括化による委託料の節減及び業務の効率化 ・モニタリング制度による業務の質の向上	91 (85)
	【次期への課題】 ・現行契約の効果水準の維持及び更なる改善に向けた検討 ・消費税増への対応の検討	
・情報の受け手を意識したわかりやすい情報発信体制の整備 (説明責任・透明性の確保) ・経営情報の積極的な活用による効率的な運営 (原価計算への取組)	【今期の実績】 ・総合病院において原価計算システムを導入し、検証や見直しを図りながら定期的にデータを蓄積した。	40・92 (87)
	【次期への課題】 ・医師のタイムスタディ等費用配賦のための基礎資料を定期的・効率的に収集する。	

(イ) 環境改善

- ・医療従事者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めた。
- ・業務改善の推進として、各病院が各々行っていた表彰制度を統合し、機構の改革推進制度として新たに設置し、改革・改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。
- ・看護師確保の一環として、多様な勤務形態のひとつである看護師の2交代制勤務の制度化について労働組合と合意し、総合病院において平成23年8月に本格導入後、平成24年4月にこども病院、平成25年1月からこころの医療センターにおいて本格導入した。
- ・有期雇用職員(県の場合、非常勤職員)については、正規職員と同様のフルタイム雇用も可能とし、業務量及び施設基準に必要な職員の確保、働く人のニーズへの対応等について弾力的に運用した。
- ・多忙化する医師を支援するため、医療秘書(医師事務作業補助者)の配置(H26.3月末現在52.93人工)を行い、医師の業務負担感の軽減を図った。なお、看護師支援のため平成21年度より配置していた病棟支援員については、看護助手と同様の業務を行っていたことから、平成24年度より看護助手に一本化して管理するものとした。
- ・看護師確保の一環として、当機構への就職を希望する看護学生に対して養成校修学資金の貸与を行う制度を平成24年度より創設した。これにより一定の看護師が就職することが期待される。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (研修体系プログラムの整備)	【今期の実績】 ・独立行政法人化前においては、職種固有の研修を除いて、静岡県全体で行う研修に参加していたが、法人独自の研修プログラムを確立した ・階層別研修(新規採用、新規役付、新任監督者、管理者) ・専門研修(コーチング、コミュニケーション、プレゼンテーション、メンタルサポート) ・事務職員研修	80 (75)
	【次期への課題】 ・研修内容の拡充 ・本部と各病院の役割分担、研修内容の調整 ・事務職員については、事務職としての基礎知識と病院事務職としての専門性向上 ・キャリアパスの作成 ・長期的な研修計画の策定	
医師・看護師その他医療従事者の確保 対策の充実を図る (看護師修学資金制度の創設)	【今期の実績】 ・平成 24 年度から新たに制度を運用し、24～25 年度において計 68 人の修学生が採用試験を経て採用	81 (76)
	【次期への課題】 ・より効率的で効果的な制度周知 ・養成校の新入生(進学する高校生)をターゲットにしたPRや修学制度が浸透していない地域でのPR	
高度医療を支える医療従事者の専門能力の向上を図る一環として、認定資格等の取得奨励を推進する体制の整備を図る (認定看護師等の資格取得を支援(医療の質の向上))	【今期の実績】 ・資格取得助成制度の導入(H25 助成者 37 名) ・認定看護師育成状況(H26. 4 月現在累計) 総合 12 名、こころ 7 名、こども 11 名 ・メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化	49 (44) 82～84 (77～79) (70・71)
	【次期への課題】 ・資格取得者の評価及び活用方法の検討 ・メディカルスキルアップセンターの利用促進	
プロパー職員(事務部門)の確保 (職員センター業務の一元化)	【今期の実績】 ・総合病院内への法人本部職員センター設置(H23. 3 月～) ・法人本部と総合病院の事務協力と効率化	94 (-)
プロパー職員(事務部門)の確保 (業務マニュアルの作成)	【今期の実績】 ・事務部門の業務マニュアル整備 ・院内コミュニケーションシステムへの公開(共有化) ・3 病院業務別担当者連絡会(研修会)の開催	95 (89)
	【次期への課題】 ・3 病院担当者連絡会や集約したマニュアルを活用した病院間業務の平準化	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
職員による経営・業務改善の提案を奨励する制度を充実し、提案が反映される制度の整備を図る （業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成(改革・改善推進制度の創設)）	【今期の実績】 ・業務改善提案の活性化 ・表彰による業務改善の推進	96 (90) (81)
	【次期への課題】 ・業務改善意識のさらなる高揚 ・改革改善提案の普及	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （多様な雇用形態や勤務形態への取組(就労環境の向上)）	【今期の実績】 ・看護師2交代制勤務などワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態の採用	97 (91) (82)
	【次期への課題】 ・職員が働き続けることができるような、更なる多様な勤務形態の整備（夜間専従看護師等）	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （医師の事務負担軽減のための「医療秘書」の配置(多忙化解消・質の向上)）	【今期の実績】 ・医師の時間外勤務の削減等(多忙化解消) ・医療の質の向上(患者と接する時間の確保等) ・医療秘書 52.93 人工の配置 (H26.3 現在)	99 (93) (84)
	【次期への課題】 ・人材の育成（医療に熟知した人材が必要）	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （看護師の業務負担軽減のための「病棟支援員」の配置(多忙化解消)）	【今期の実績】 ・看護師不足に対応するため、看護師充足まで支援員を配置 ・病棟支援員については平成 24 年度より看護助手として管理し、看護師業務の軽減に寄与。 ・ 看護助手 85 人配置 （総合 54、こころ 10、こども 21） H25.4 月末	99 (93) (84)
	【次期への課題】 ・適性配置数の検証	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る （医師・看護師確保のための宿舎・院内保育所の整備）	【今期の実績】 ・総合病院看護師宿舎、こども病院看護師宿舎の借上げ (H23.4 月入居開始) ・こども病院医師宿舎の建設 (H24.3 月完成) ・総合病院院内保育所の建設 (H24.3 月完成)	98 (92) (83)
	【次期への課題】 ・こども病院の老朽化した医師宿舎の取扱い ・こども病院の保育所の運用見直し、建替え	

(ウ) 災害等における医療救護

①東日本大震災への対応状況

- 東日本大震災（平成23年3月）への医療救護活動として、岩手県宮古市などへの県立総合病院のDMAT派遣及び静岡県医療救護班派遣（一般医療チーム及び精神医療チーム）等による被災地支援を震災直後から平成24年3月末まで実施した。

派遣実績

(単位：日、人)

区分	派遣期間 (移動を含む)	延日数	派遣職員数				
			合計	医師	看護師	その他	
H22	DMAT派遣	3/11～3/21	7	12	4	4	4
	総合病院で独自派遣	3/18～3/21	4	6	3	2	1
	静岡県医療救護班						
	一般医療チーム	3/21～3/28	10	13	6	5	2
	精神医療チーム	3/24～4/3	15	14	5	3	6
	累計		36	45	18	14	13
H23	静岡県医療救護班						
	一般医療チーム	4/2～4/30	29	28	12	8	8
	精神医療チーム	4/14～3/30	99	52	21	16	15
	放射線技師派遣	7/18～7/22	5	2	0	0	2
	累計		133	82	33	24	25
	総計		169	127	51	38	38

※静岡県医療救護班：静岡県からの要請に基づき、県内公的病院による救護班を組織して派遣。

「一般医療チーム」⇒「総合+こども」「総合」によるチーム編成。

「精神医療チーム」⇒「こころ」によるチーム編成。

※放射線技師派遣：福島県からの要請に基づき、被ばくスクリーニング業務を行う技師を静岡県でチームを編成して派遣。

②東海地震に備えた今後の対応

- 県立総合病院において災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行った。今後、改訂したマニュアルに基づき訓練を実施するとともに、内容の検証や見直しを進めていく。
- 医療継続の観点で、道路の復旧が遅れ、医薬品・診療材料の供給に支障を来さないよう、県及び卸業者との協議を進める（航空機による搬送計画等検討）。
- 被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、国が体制や計画の見直しを進めている。二次被ばく医療機関となっている総合病院では、国の動向を注視していくとともに、県及び関係機関と協議を行いながら院内体制の見直しを検討していく予定である。

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の
全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

ア 総 括

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

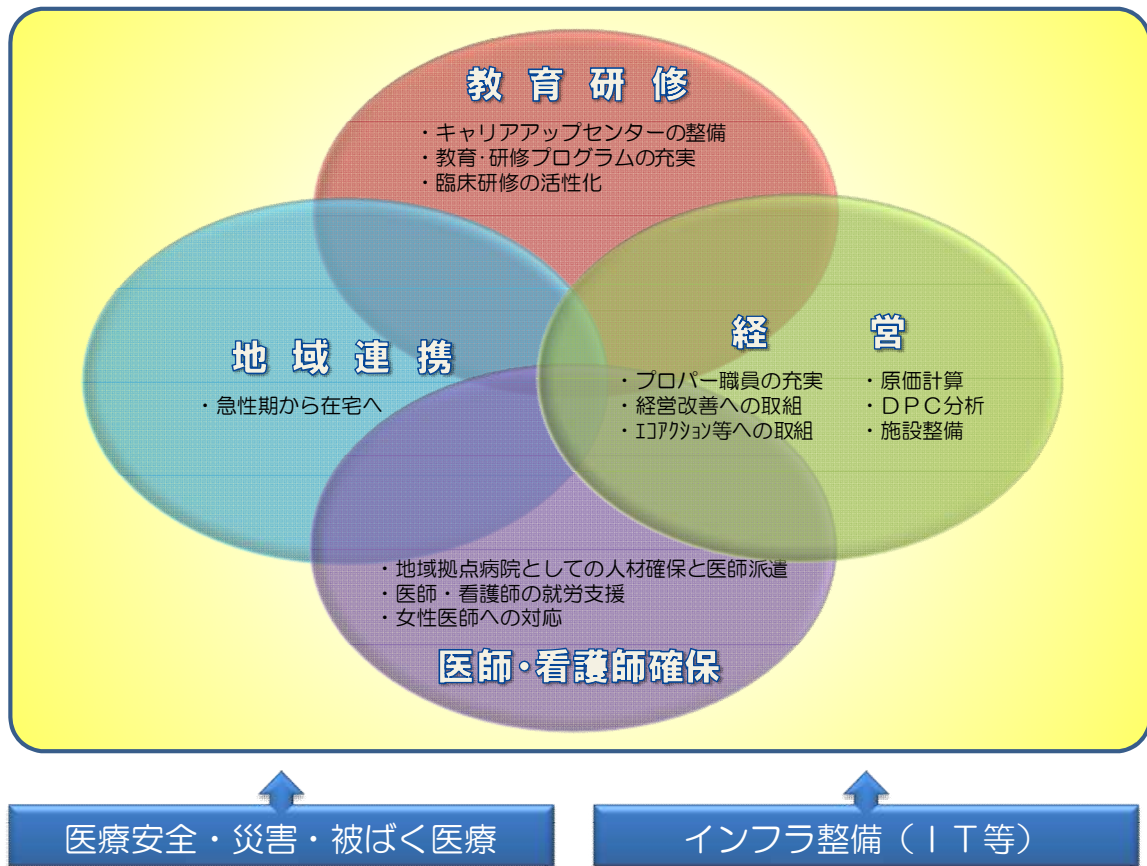
本中期計画期間は、主要事業として、循環器病センター機能を活かした24時間365日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供及び平成25年7月に指定された救命救急センターの機能を十分に活かした救急医療の提供を三本柱として取り組んだ。

また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

平成22年4月及び平成24年4月の2回にわたる診療報酬増額改定の効果を最大に享受すべく、施設基準の積極的な取得及び維持、DPCデータの分析などに取り組むことにより、診療単価を向上させている。必要看護師数を確保できない状況の中で、3G病棟(ICU/CCU)を特定集中治療室管理料の届出、3A病棟(HCU)を開棟しハイケアユニット入院医療管理料の届出など、診療機能の向上に努めた。この結果、入院延患者数、外来延患者数ともに中期計画を上回り、収入も中期計画を上回った。

今後も、県立総合病院が目指す病院像(次頁(図1)参照)のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとする。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 延患者数については、入院、外来とも中期計画を上回った。また、単価についても、入院、外来とも中期計画を上回った。この結果、期間中の収入は中期計画額を確保した。

業務実績

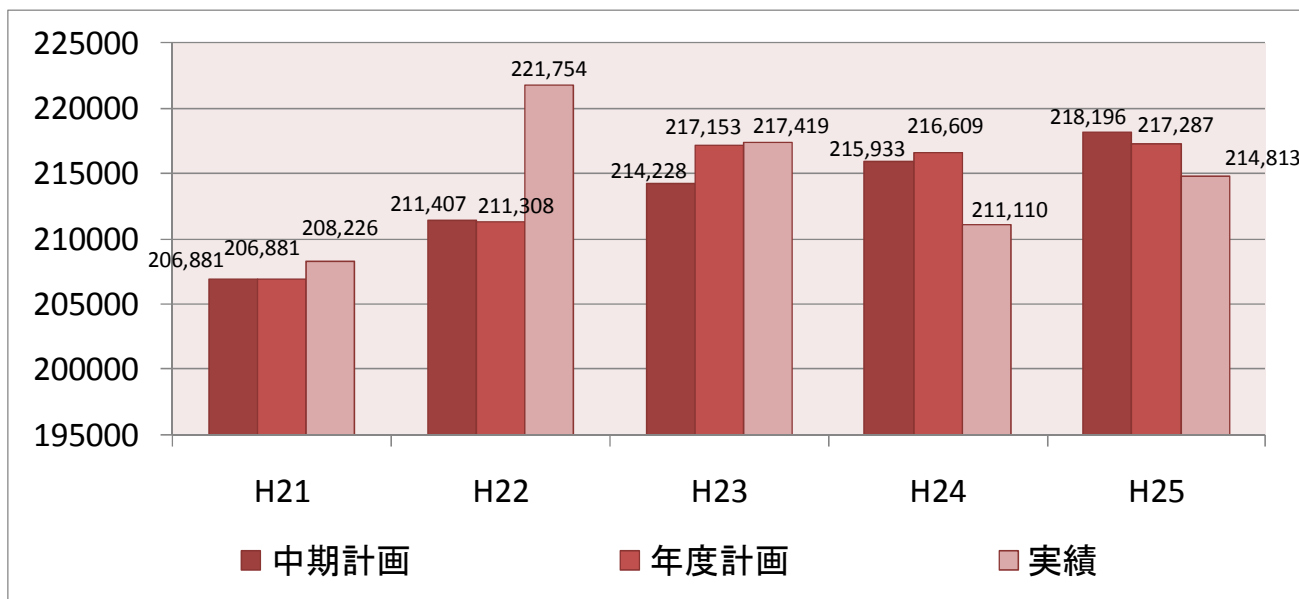
区 分		H21	H22	H23	H24	H25
入 病 床	年間入院延患者数 (人)	198,986	211,867	209,628	204,373	206,938
	患者1人1日当たり単価 (円)	54,738	59,655	60,517	63,317	64,532
	平均在院日数 (日)	12.5	12.6	12.4	12.4	12.3
	病床利用率 (%)	87.9	93.6	92.4	90.3	91.4
結 核 病 床	年間入院延患者数 (人)	9,240	9,887	7,791	6,737	7,875
	患者1人1日当たり単価 (円)	18,556	21,644	22,554	25,192	24,262
	平均在院日数 (日)	75.3	78.0	76.5	70.5	70.8
	病床利用率 (%)	25.3	27.1	21.3	18.5	21.6
外 来	年間外来延患者数 (人)	374,166	393,226	401,041	406,237	406,727
	患者1人1日当たり単価 (円)	15,186	15,524	16,003	16,598	16,873

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床利用率は、一般病床620床、結核100床で算定。

患者数の推移 (21年度実績～25年度実績)

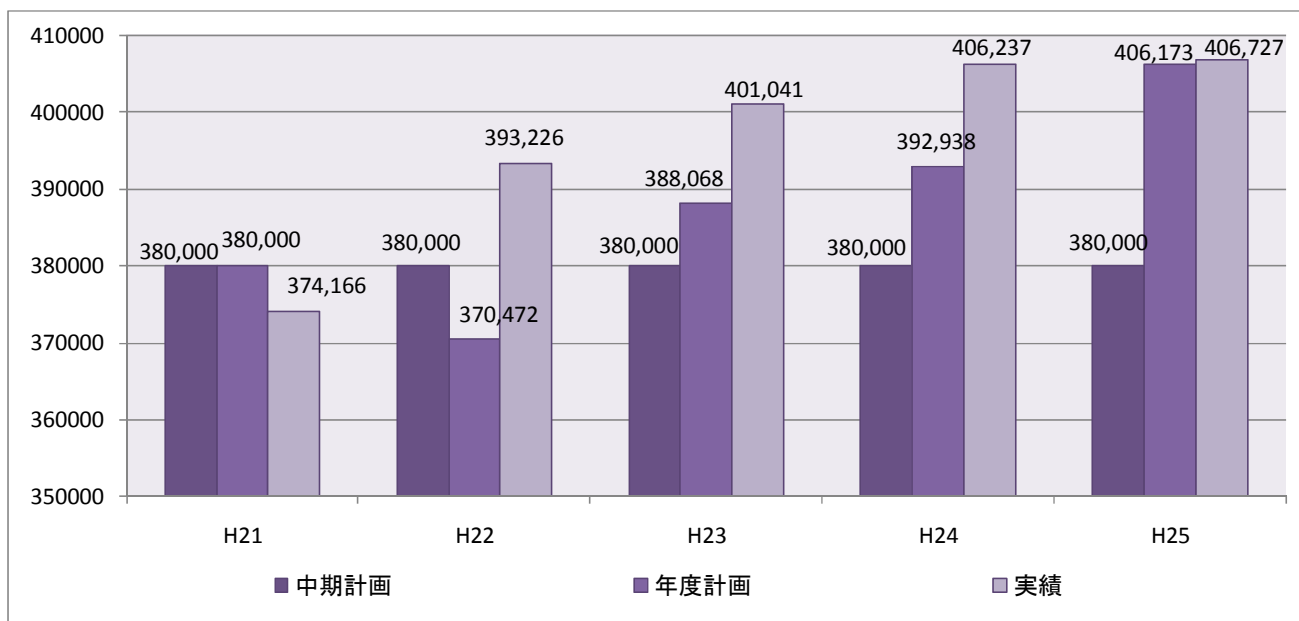
入院延患者数 (総合病院)

(単位：人)



外来延患者数 (総合病院)

(単位：人)



- ・ 紹介率は過去最高の水準を実現した。逆紹介率は、昨年度と比べると低下したが、依然として高い水準を保っている。

紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	備考
紹介率	81.2	82.1	81.5	81.1	82.1	
逆紹介率	72.0	93.8	105.1	112.1	106.7	

※紹介率・逆紹介率の算定方法については、P74の用語解説を参照。

ウ 特記事項

(ア) 医 療

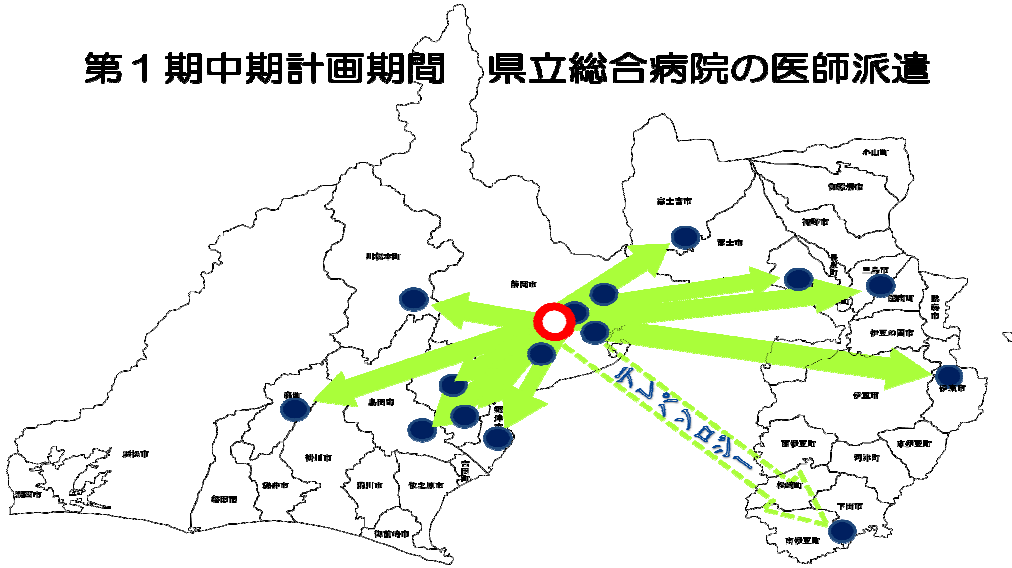
- 医療の提供については、循環器病、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成26年3月の厚生労働省告示により、全国1,585のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国99病院のⅡ群の一つとなり、大学病院本院（Ⅰ群）に準じた高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて6病院）。なお、平成26年度の機能評価係数Ⅱは、Ⅱ群病院99病院中25位（県内2位）となっている。

DPC対象病院の分類等（H26.3）

DPC対象病院の分類	
Ⅰ群	大学病院本院（80病院）
Ⅱ群	大学病院本院に準じた診療機能を有する病院（99病院）
Ⅲ群	その他の急性期病院群（1,406病院）
Ⅱ群の要件：以下の要件1～4の全てについて基準値以上となっていること。	
1. 診療密度 <1日当たり包括範囲出来高実績点数（全病院患者構成で補正）>	
2. 医師研修の実績 <届出病床当たりの医師数（免許取得後2年目まで）>	
3. 高度な医療技術の実績（以下の3つのすべてを満たす）	
(3a) 手術1件あたりの外保連手術指数（協力医師数補正後）	
(3b) DPC算定病床当たりの同指数（協力医師数補正後）	
(3c) 手術実施件数（3,200件）	
4. 重症患者に対する診療の実績 <複雑性指数（DPC補正後）>	

- 循環器病については、12床（H25.7から10床）のCCU/ICUを24時間体制で運用し、その利用率は90%を超えている（H25は96.1%）。平成21年度に再開した不整脈外来・カテーテルによる不整脈治療や脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用し、循環器病センターの機能充実に努めた。
- がん医療については、総合相談センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指して、平成22年度にリニアックを1台増設し、稼働した。また、平成22年度に内視鏡室の改修工事が完了し検査・治療環境が改善した。このほか、地域の医療者にも開かれたがん診療連携拠点病院としての機能強化に努めた。平成25年7月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2011年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,454件は全国395施設で48番目に多い登録件数であった。
- 救急医療については、医師の変則勤務の試行、曜日別当番医師を定めるなど、循環器病センターの機能充実と相俟って救急医療体制の充実に努めた。東日本大震災の対応における課題を受け、平成24年3月に厚生労働省医政局長から「災害時における医療体制の充実強化について」の通知がされ、基幹災害拠点病院は救命救急センターであることが要件となり、救命救急センターの設置が課題となった。その要件である複数の救急科専門医の確保ができたため、平成25年7月に救命救急センターの指定を受けた。
- 地域医療の支援については、平成21年度から平成26年3月までに14医療機関に対して延べ3,799人の医師の派遣を行うとともに、PETやCT・MRIの高度医療機器の共同利用を進めている。また、平成22年度総務省委託事業である「地域ICT利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成26年3月末現在、開示施設は14病院、参照施設は175施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

第1期中期計画期間 県立総合病院の医師派遣



- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成23年度に卒後臨床研修評価機構（JCPEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が高く評価され、認定証の発行を受けた。また、医師臨床研修マッチングにおいて、平成24年度は募集定員17名中16名、平成25年度は22名中21名を確保することができ、静岡県内では最多となった。

※()は25年度実績のNo (以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表NO
循環器病センター機能を生かすべく、循環器疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の整備を図る (循環器病センターの運営(施設稼働率の向上))	【今期の実績】 ・CCU/ICUの24時間365日の運用維持 ・MRI、CT、心カテ、IVRの活用 ・メディカルスキルアップセンターの研究研修機能の強化	13~15 (1~3)
	【次期への課題】 ・高度医療機器の活用推進 ・医師の確保 ・メディカルスキルアップセンターの外部利用促進	84 (79)72)
がん疾患患者に対して、地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制、情報提供・発信する体制の充実を図る (がん医療の推進(地域がん拠点病院の機能))	【今期の実績】 ・地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす(主要がん手術、放射線治療、外来化学療法、緩和ケア、がん相談、がん登録) ・PETイメージングセンターの運営(がんの病期診断精度等の向上、PET検診提携)	16~18 (4~6)
	【次期への課題】 ・麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保 ・がん相談窓口の充実	56 (52)(48)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
重篤な救急患者に対して救命救急センターに準じた機能の段階的な整備を図る (救急医療への取組み(救急の体制))	【今期の実績】 ・救急車搬送患者の受入体制の確保 ・当直体制、当番体制の整備 ・医師の変則勤務の試行	19・20 (7・8)
	【次期への課題】 ・医師の負担軽減 ・救急専門医の確保	
地域医療支援病院として、高度な専門施設・機器の共同利用をより促進する体制の整備を図る (地域医療支援への取組み(地域医療支援病院の機能))	【今期の実績】 ・紹介率 80%以上、逆紹介率 70%以上 ・高度医療機器の共同利用 ・葵カード発行	55・56 (51・52) (47・48)
	【次期への課題】 ・PET 検診の提携拡大	

循環器病センター



救急処置室 (1F)



心カテ室 (2F)



CCU (3F)

(イ) 経営改善

- ・必要看護師数が確保できない状況の中、医療秘書や病棟支援員の配置、看護師の離職防止対策などを進めた結果、「医師事務作業補助体制加算」や「急性期看護補助体制加算」の施設基準の取得及びランクアップし、一般病棟 7 対 1 看護の維持に努めつつ、3G 病棟 (ICU/CCU) を特定集中治療室管理料の施設基準の届出、3A 病棟 (HCU) を開棟しハイケアユニット入院医療管理料の施設基準の届出など、診療機能の向上に努めた。また、平成 22 年 4 月と平成 24 年 4 月の診療報酬改定における増収につながる施設基準を可能な限り取得し、収入の確保に努めた。
- ・
- ・エコアクション 21 の取組みとして、エコ川柳・標語の掲示、エコ・ウォークラリー等を実施し、職員に対して経費節減の啓発活動を行っている。また、業務委託等の見直しを行うなど、医業費用の縮減に努めている (エコアクション 21 は平成 26 年 3 月に認定証を返却し、4 月からは経費削減委員会として活動を続ける予定)。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得(診療報酬の確保))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 対 1 看護維持等 ・ 新規に取得した施設基準の数 87 件(ランクアップ 6 件含む) ・ 高度専門医療の提供 ・ 年度計画収支の改善 	88 (82) (75)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設基準の維持・拡大 ・ 院内に専門的知識を持った職員を養成 ・ 事務プロパー職員の専門性を高めていくための人材育成計画等を整備していく必要がある。 	
エコアクション 21 認証取得後の取組み (省エネの推進)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ エコアクション 21 認証取得、更新 ・ 内部監査実施 ・ 光熱水費の削減 ・ エコ川柳・標語募集・表彰式 ・ エコウォークラリーの開催 ・ エコパトロールの実施 	—

(ウ) 環境改善

- ・ 院内保育所を整備するなど就労環境の向上を図っている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る。	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師 2 交代勤務を導入した。 ・ 1 病棟 1 カンファレンスの整備 ・ 医師宿舎(世帯用)のリニューアルを実施した。 ・ 院内保育所を整備した。(定員 55 人→100 人) ・ 新医局のオープン ・ 医療秘書(医師事務作業補助者)を 12 人工から 31.06 人工に増員し、医師の負担軽減を図った。 	97・98 (91・92) ・ 99 (93)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 交代勤務実施病棟の拡大 	

- ・ 職員及び来院者のアメニティの向上のために施設整備を進めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
職員の就労環境の改善、向上を図る。	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内カフェ、外来食堂及び売店がオープンし、外来改修工事も完成した。 ・ イートインスペースを新たに 2 ヶ所設置した。 ・ 職員休憩室を地下から環境の良い北館 6 階へ移転させた。 	101 (95) (86)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北館 6 階職員エリアの整備 	

院内保育所 (H24. 4. 1 オープン)



アメニティ棟【レストラン】(H24. 4. 1 オープン)



売店 (H24. 8. 1 オープン)



院内カフェ (正面玄関ホール) H22. 6. 1 オープン



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

ア 総 括

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「先進医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想(図2)参照）に取り組んでいる。

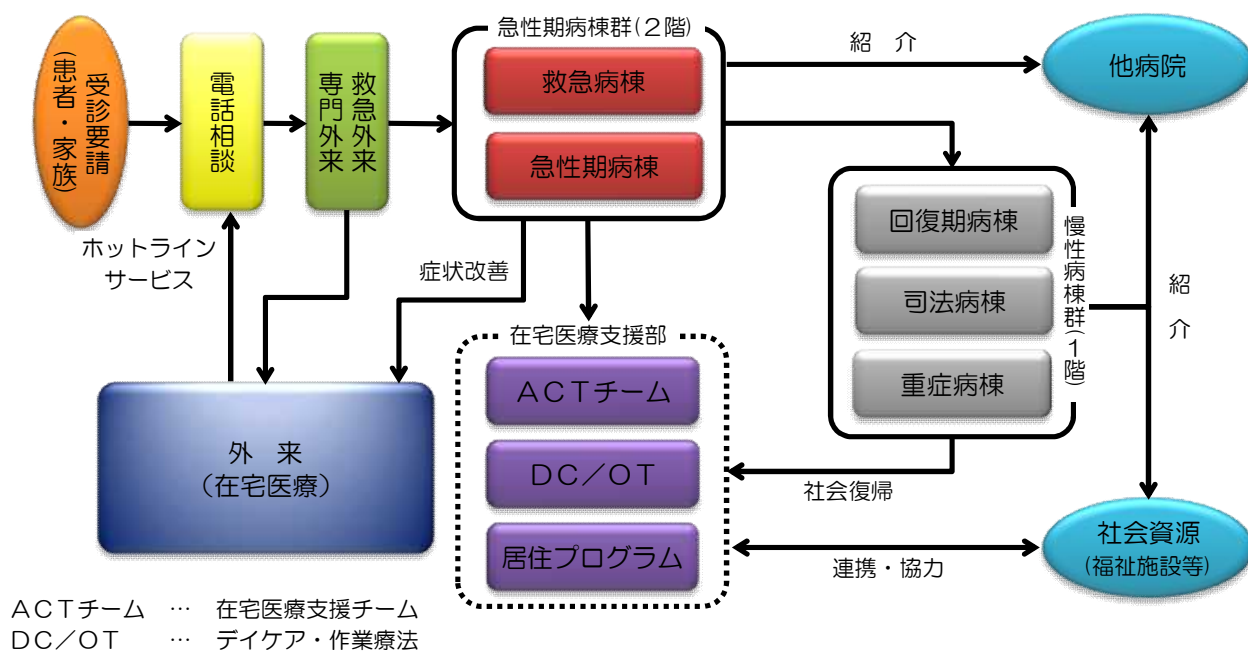
平成22年度に急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、これを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、効率的な病棟運営に努めた。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んだ。

合わせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療への取り組みを強化した。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、先進的医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関としての機能拡充を図るなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んだ。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



イ 業務実績を示す各種指標

- 入院延患者数は、医療観察法病床の増設や病棟の移設工事、また、これに伴って8床減少した病床の増設工事が、平成22年7月から平成23年末まで行われたこともあり、この時期に一時減少したが、増床工事の終了した平成24年から回復したが、平成25年度は、新規入院患者数が伸び悩み、入院延患者数も減少した。
- 入院単価は、単価が高い医療観察法による患者の受入が本格化した平成23年度以降、上昇基調にある。
- 外来延患者数は、平成21年3月にダウンサイジング（児童精神病棟のこども病院への移転）を実施した影響や、救急医療への積極的な取組を目的に、平成23年度から救急外来専用枠を設定、平成24年度から新規外来患者枠の増枠をし、平成24年度まで減少傾向であったが、平成25年度は、一転、増加している。
- 外来単価は、各種検査の実施率改善等により、小幅ではあるが上昇基調にある。

業務実績

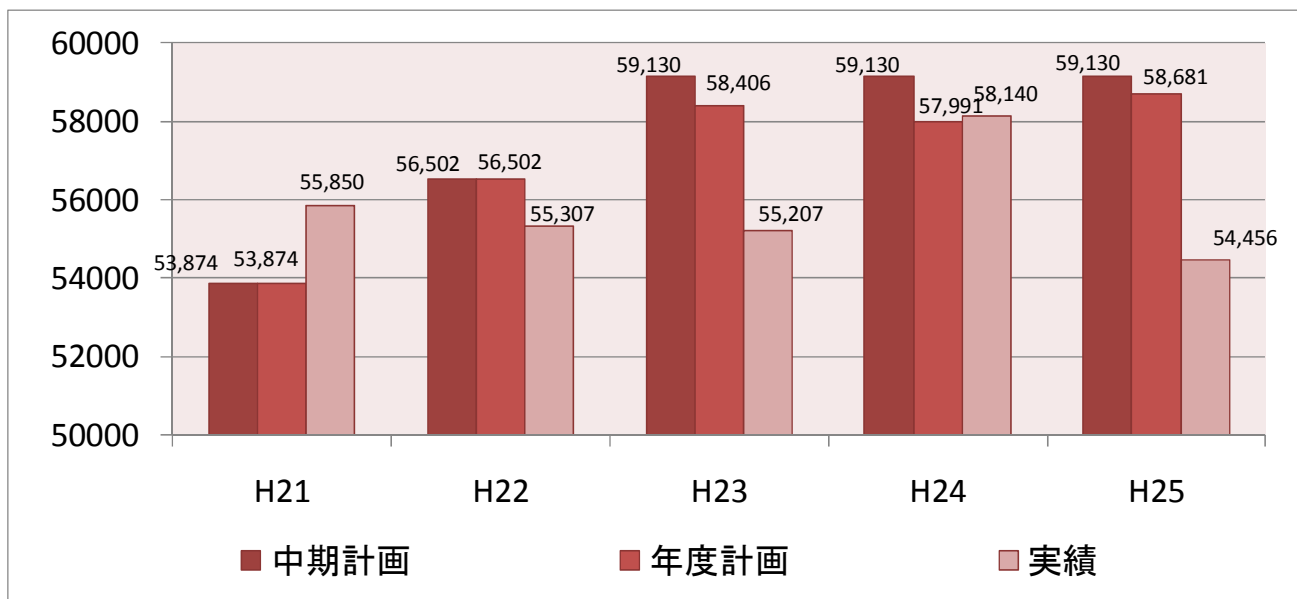
区 分		H21	H22	H23	H24	H25
入 院	年間入院延患者数（人）	55,850	55,307	55,207	58,140	54,456
	患者1人1日当たり単価（円）	19,787	19,885	21,712	22,405	24,365
	平均在院日数（日）	100.1	107.1	111.7	100.9	108.2
	稼働病床利用率（%）	85.0	86.3	86.7	88.5	82.9
外 来	年間外来延患者数（人）	44,492	43,254	41,682	39,167	41,142
	患者1人1日当たり単価（円）	5,581	5,818	5,855	6,057	6,061

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床利用率は、180床で算定。

患者数の推移 (21年度実績～25年度実績)

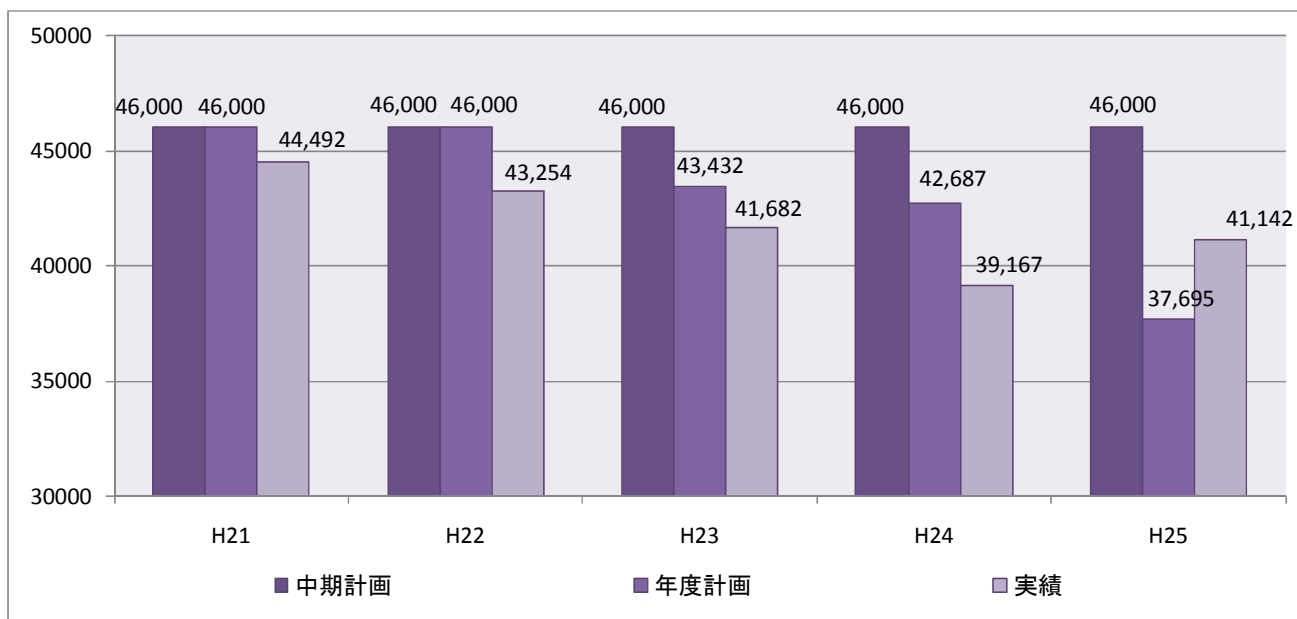
入院延患者数 (こころの医療センター)

(単位:人)



外来延患者数 (こころの医療センター)

(単位:人)



- ・ 紹介率は、他院からの急性期や重篤な症状の患者を 24 時間体制で受け入れているため比較的高く推移しているが、一方で、患者の症状によっては地域の医療機関に戻せないケースもなることから、逆紹介率は伸び悩んでいる。今後は、地域の関係機関との連携を強化し、紹介率及び逆紹介率の向上に努めていく。

紹介率・逆紹介率

(単位:%)

区分	H21	H22	H23	H24	H25	備考
紹介率	57.4	54.8	58.0	54.4	49.6	
逆紹介率	26.8	26.1	48.4	30.2	29.8	

ウ 特記事項

(ア) 医 療

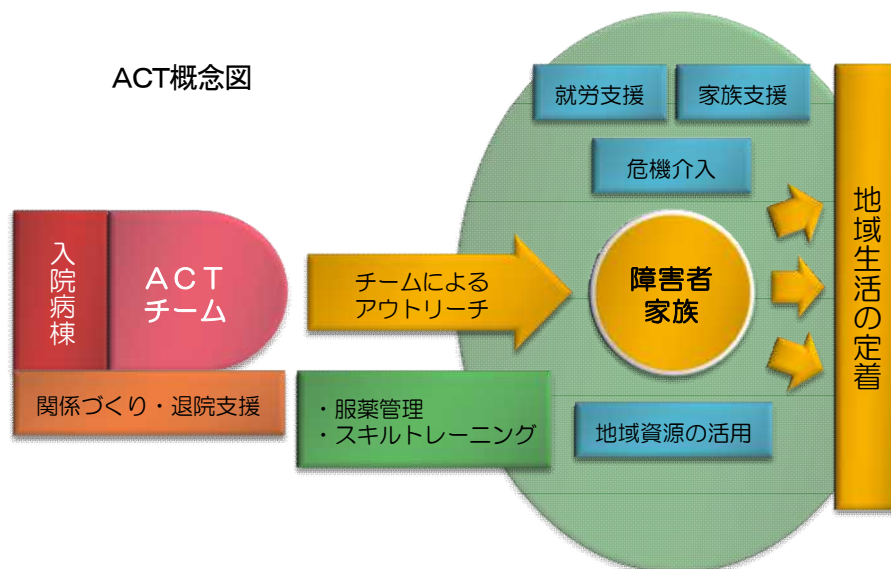
- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めた。
- 地域医療の支援については、県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を開設するなど、24時間体制で救急相談に対応したほか、講演会等への講師派遣、出前講座への認定看護師の派遣などに取り組んだ。
- 先端薬物療法（クロザピン）や先進的な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に取り組んだ。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に関する取り組みを強化・拡大した。
- 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。
- 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、増床により機能を充実し、地域完結型の医療環境の形成を進めた。

※()は25年度実績のNo（以下同様）

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表No
24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急・急性期医療の提供体制の整備)	【今期の実績】 ・精神科救急、急性期医療に特化した診療体制への整備 ・在宅医療支援体制の強化	21・22 (9・10)
	【次期への課題】 ・長期在院患者の退院促進と在宅医療支援の強化 ・新規患者比率を高める ・新規患者の90日以内の退院率を高める	
24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る (精神科救急医療相談体制の整備(電話相談部門のワンストップサービス))	【今期の実績】 ・県内全域を対象とし、24時間体制で救急医療相談に対応	23・65 (11・54) (50)
	【次期への課題】 ・相談件数を増加させるため、精神科救急ダイヤルの一層の周知	
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (先端薬物療法等(クロザピン、m-ECT)を積極的に実施する)	【今期の実績】 ・m-ECT（修正型電気けいれん療法）の実施 ・クロザピンによる治療の実施	24・25 (12・13) (13・14)
	【次期への課題】 ・m-ECTの安定した実施に向けての麻酔医の確保 ・クロザピンによる副作用に対する安全対策の徹底	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
他の医療機関では対応することが困難な重症患者に対する先進的治療への積極的な取組をする (心理・社会的治療についての実施体制を強化・拡大する)	【今期の実績】 ・患者に対する心理教育・家族教室への取組を開始	26 (14)
	【次期への課題】 ・心理教育・家族教室の実践に対する診療報酬算定方法の検討	
多職種チームによる包括的な在宅医療支援体制モデルを構築し、継続実施する (ACTの構築)	【今期の実績】 ・ガイドラインに沿ったACTによる支援の実施	27 (15)
	【課題】 ・地域支援を行うための収入の確保	
医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与	【今期の実績】 ・医療観察法指定入院医療機関としての適正運用と機能拡充に適したプログラムの提供	28 (16)
	【次期への課題】 ・スタッフの一層のレベルアップ	
機構内3病院における連携体制 (精神身体合併症への対応:総合病院との連携体制)	【今期の実績】 ・総合病院内科医、皮膚科医等による往診 ・総合病院緩和医療チームへの支援 ・緊急時の搬送体制の確立 ・こども病院精神科の入院治療への支援	10 (31)
	【次期への課題】 ・病院間横断的な検討の実施	

ACT概念図



(イ) 経営改善

- ・ 診療報酬の適正請求や医療観察法の指定病床の増床など、収益の増加に努めている。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・ 診療報酬の適正請求に努めるとともに、医療観察法病床の増床などによる収益増	28・88 (16・82) (75)
	【次期への課題】 ・ 施設基準の維持・拡大 ・ 救急急性期医療等の拡大(算定外患者を減らす、病床利用率の向上) ・ 外来患者の増加策の検討	
遊休施設等の有効活用を図る	【今期の実績】 ・ 北4病棟を医療観察法の作業療法ゾーンに改修し活用 ・ 北3病棟を看護学生の実習室として活用 ・ 南3病棟に男性看護師用の休憩室を設置 ・ 北3及び南3病棟の個室を夜勤職員用の休憩室として2部屋ずつ計4部屋確保	—
	【次期への課題】 ・ 北3及び南3病棟のその他空きスペースの活用法の検討 ・ グランド等の遊休施設の活用法の検討	

(ウ) 環境改善

- ・ 北1病棟の医療観察法病床整備に合わせて、今までナースステーションの一角にあった北1及び北2病棟看護職員の休憩室を、別棟として新築し独立した空間を確保した。
- ・ 夜勤職員用の休憩室を、3階フロアに4部屋(男女別に2部屋ずつ)確保した。
- ・ 男性看護師の増加に伴い、男性用の休憩室を3階フロアに増設した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
就労環境の改善	【今期の実績】 ・ 北1及び北2病棟職員用の独立した休憩室を1部屋ずつ確保 ・ 夜勤職員用の休憩室を4部屋確保 ・ 男性看護師用の休憩室を1部屋増設	101 (95) (86)

独立した北1、北2病棟職員休憩室



男性看護師用の休憩室(南3フロア)



(4) こども病院

<理 念>

「すべての子どもと家族のために、安心、信頼、満足の得られる医療を行います。」

*平成22年4月改定

<基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



ア 総 括

こども病院は、県内小児医療の中核病院として、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。平成22年度に、職員公募により病院理念を改定し、病院の目指す医療について職員の意識統一を図った。

平成21年の地方独立行政法人化の後、平成21年4月には常勤2名に加え有期医師をローテーションさせスタッフを充実させることで循環器集中治療室を独立した循環器集中治療科へ改組し、静岡市二次輪番制等の救急医療と総合的かつ各科横断的な医療介入、さらに後期研修医教育を担うため救急総合診療科を新設し、この科を中心に平成25年6月には小児救急センターを開設、初期救急から24時間365日対応できる小児救急医療体制を構築した。また、精神科部門の入院施設として東2病棟（こころの診療科、36床）を開棟した。

平成22年7月には県内の小児がん患者の約半数が当院を受診している実績が認められ静岡県小児がん拠点病院の指定を受けた。同年9月には診療業務の効率化及び医療スタッフ間での患者情報の共有化等を目的に電子カルテの導入を行った。さらに、同年12月には高次小児救命救急の実績が認められ、小児集中治療センター（PICU）と循環器センター（CCU）を合わせ厚生労働省から小児救命救急センター運営事業の指定を受けた。

平成 24 年 2 月には、増大する新生児未熟児医療需要に対応するため、北 2 病棟（新生児未熟児病棟）の改修を行い、NICU を 3 床増床した。

これらの取り組みから、循環器センター、小児集中治療センター、周産期センターに設置した ICU 病床やこころの診療センターを中心とした高度・専門医療は県内外から注目を集め、高い評価を受けた。

イ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数は、期間中ほぼ同水準を維持し、外来延患者数は、期間中順調に増加した。
- ・ 診療単価は、入院・外来ともに期間中ほぼ順調に上昇した。

業務実績

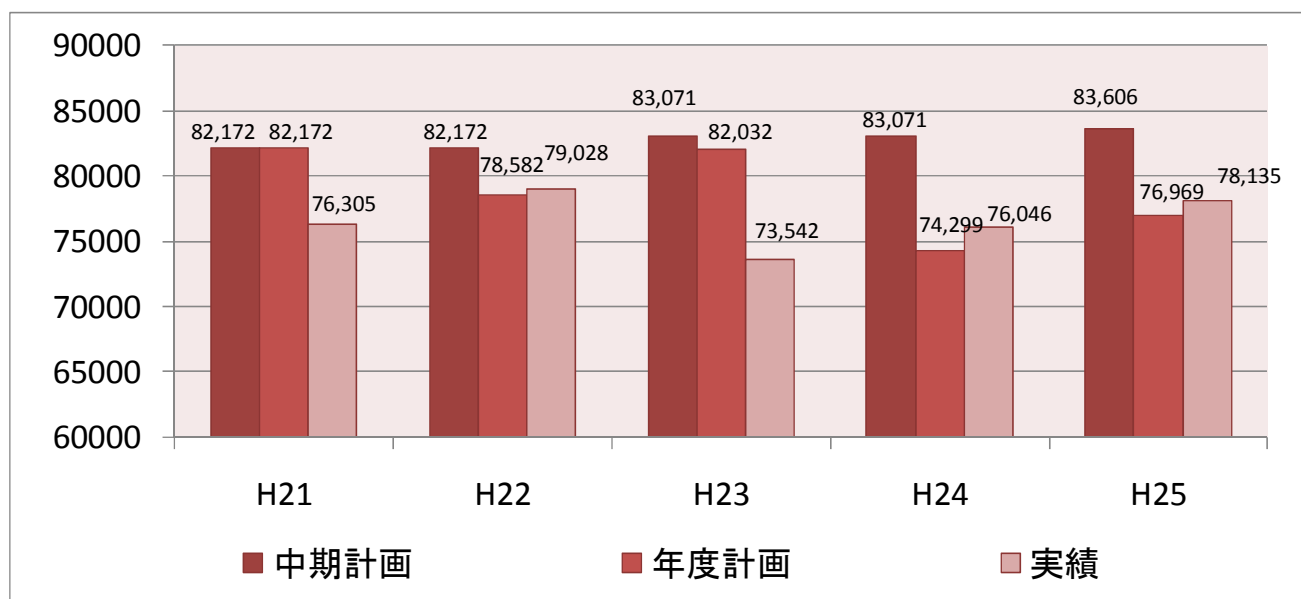
区 分		H21	H22	H23	H24	H25
一 般	年間入院延患者数 (人)	67,488	68,620	65,603	65,840	67,447
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	79,536	91,028	94,413	96,659	103,750
	平均在院日数 (日)	12.6	10.9	10.2	11.0	11.2
	病床利用率 (%)	76.1	77.4	73.8	74.2	76.0
外 来	年間外来延患者数 (人)	79,598	80,279	83,321	86,188	89,114
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	14,302	15,192	14,580	15,009	15,898
精 神	年間入院延患者数 (人)	8,817	10,408	7,939	10,206	10,688
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	14,512	16,376	15,869	24,008	26,271
	平均在院日数 (日)	140.2	144.6	189.4	184.6	193.3
	病床利用率 (%)	67.1	79.2	60.3	77.7	81.3
外 来	年間外来延患者数 (人)	10,687	11,682	11,383	11,583	12,188
	患者 1 人 1 日当たり単価 (円)	6,237	5,932	5,897	7,936	5,820

※患者 1 人 1 日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。一般の平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、精神科を除いて算定。病床利用率は、一般 243 床、精神 36 床で算定。

患者数の推移（21 年度実績～25 年度実績）

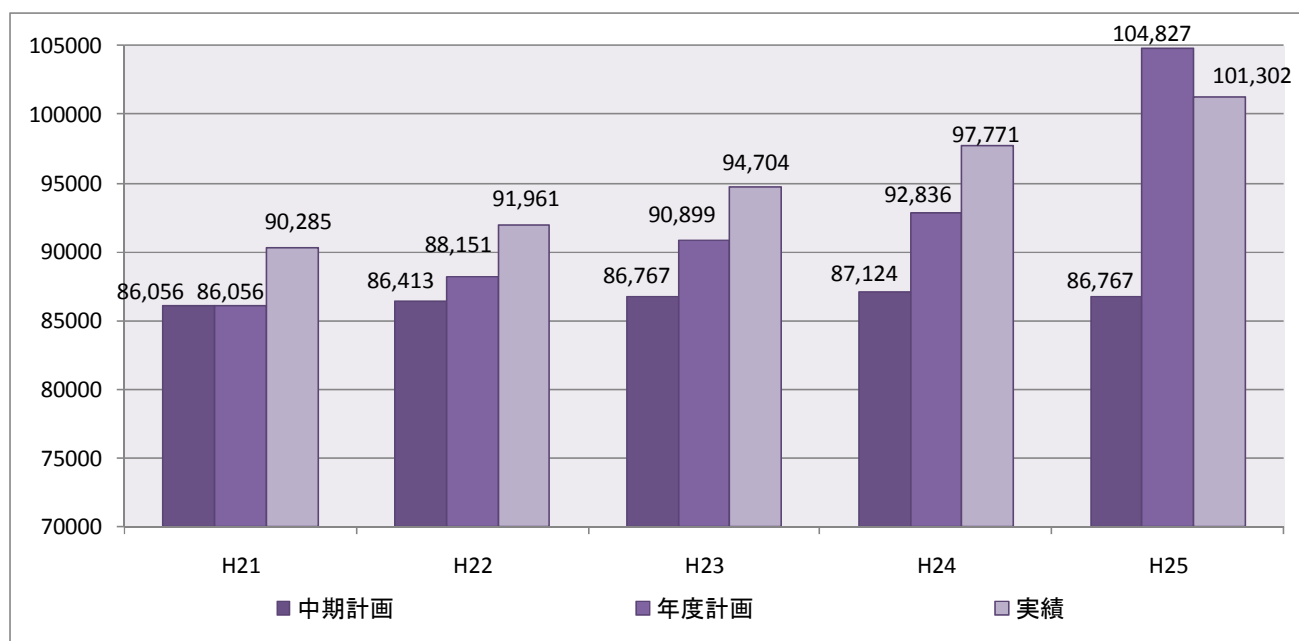
入院延患者数（こども病院）

（単位：人）



外来延患者数（こども病院）

（単位：人）



- ・ 病診連携、病病連携を強化したことにより、紹介率、逆紹介率ともに着実に向上した。

紹介率・逆紹介率

（単位：％）

区分	H21	H22	H23	H24	H25	備考
紹介率	87.9	96.0	94.6	94.1	94.8	
逆紹介率	30.7	31.5	39.1	39.3	49.9	

ウ 特記事項

（ア）医療

- ・ 循環器疾患に対しては、カテーテル治療（アンプラッツァー）等の先進的治療を行い、小児循環器集中治療医の育成のための研修プログラムの実施、一般電話回線を利用した遠隔エコー診断など、高度先進的治療の体制充実に努めた。
- ・ 新生児未熟児科医の増員、NICU（新生児集中治療室）の増床、妊娠管理から治療までのシステム構築の一環として県内の医師看護師に対する講習会の開催など、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度な先進的治療の提供に努めた。
- ・ 児童精神科病棟（36床）の開設により外来から入院まで一貫した治療体制を整えるとともに、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画しネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、児童精神科分野における中核的機能を発揮した。
- ・ 救急総合診療科、PICU（小児集中治療科）を開設し小児救急医療への対応を強化するほか、地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、24時間365日を通して、重篤な小児救急患者の受け入れ体制の強化に努めるとともに、初期救急も含めた小児救急患者受入体制を整備した。
平成23年9月には静岡県救急医療功労の県知事表彰を受けた。

- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催し、小児がんの高度な集学的治療へ積極的に取り組んだ。
- ・ 地域医療の支援については、医療機関に対して医師を派遣したほか、地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修の受け入れ、講演会やセミナーの開催などに取り組んだ。
- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や海外研修医の受入、レジデントの臨床指導のためにオーストラリアから医師を招へいするなど教育機能の充実に努めた。
- ・ 県健康福祉部と県教育委員会主催の「こころざし育成セミナー」に協力（平成 22 年度）して、医学部進学を考えている高校生に対し、講演会、手術シミュレーション等の体験学習を実施した。

※()は 24 年度実績の No (以下同様)

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
小児重症心疾患患者に対し、24 時間を通して高度な先進的治療を提供する体制を整備する (小児重症心疾患患者への先進的治療の提供(体制整備、専門医等の育成))	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器集中治療科の新設 ・ 小児循環器疾患治療スタッフの教育研修の充実 ・ 心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ・ 高度な小児心臓手術の実施 	30 (18)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療に見合った診療報酬制度の提案 	
地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるとともに新生児に対して高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新生児未熟児集中治療医師の増員 ・ 地域の医療機関との連携システムを構築 ・ 周産期医療従事者の技術向上のため講習会、症例検討会を実施 	31・32 (19・20)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師の確保 ・ 周辺病院の産科閉鎖等による、地域の周産期医療弱体化への対応 	
精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神分野における中核的機能の発揮に努める	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児精神科病棟の運用開始 ・ こどもの精神保健ネットワークの中核機能を担う拠点病院として連携推進事業の実施 	33・34 (21・22)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との更なる連携強化 	
24 時間を通して重篤な小児救急患者の受け入れ体制を強化するとともに、患者の重症度に応じ、地域の医療機関と分担して受け入れる体制づくりに協力する	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急総合診療科の開設 ・ 静岡県の小児三次救急を担う（P I C Uにおける小児の救命救急） ・ 静岡市の二次救急輪番制への継続参加 ・ 救急隊・ドクターヘリの受入れ ・ 小児救急センターの開設 	35 (23)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小児救急医療体制充実への関与、支援体制の確立 ・ 医療に見合った診療報酬制度の提案 	

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
小児がん診療の拠点病院として、高度な集学的治療へ積極的に取り組む	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・院内の各診療科、他職種と連携し高度な集学的治療を積極的に実施 ・静岡県小児がん拠点病院の指定 	37 (25)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞処理室の整備 	
機構内3病院における連携体制 (周産期医療への対応:総合病院との連携体制)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・母体管理など総合病院と連携し対応 	10 (31)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・人材の交流体制の確立 	
診療情報管理機能の整備を図る (電子カルテシステムの導入による業務の効率化・チーム医療の推進)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテシステムを導入し運用を開始 	39 (35)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテへの習熟と、より効率的な運用体制の検討・整備、管理体制の確立 	
県民向け・医療機関向け等、情報の受け手を意識した分かりやすい情報発信機能体制の整備を図る (県民向けイベントへの参加)	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・こども未来プロジェクト(子育て支援イベント)に平成22年度から毎年参加 	43 (37)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・より効果的なPR方法の検討 	
教育研修機能の充実を図る	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・マンツーマン指導による後期研修医プログラムの実施 ・海外との交流(タイ、オーストラリア、ベトナム等)により、研修医の派遣・受入、指導医の招へいを実施 	47 (43) (39)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の多忙化を解消し、研修機会を確保 ・専任の教育担当医師の確保 	
地域の病院への医師派遣や地域の初期救急への応援	【今期の実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・医師不足の公的病院に医師を派遣 ・急病センター(静岡市、志太榛原)への医師派遣 ・小児救急センターの開設 	62・63 (60・61)
	【次期への課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・医師の確保 	

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

※ドクターカーは平成 22 年 6 月に更新した。

(イ) 経営改善

- ・ 特定入院管理料 (NICU・MFICU 加算、小児入院管理料 1、新生児回復室入院管理料等)、急性期看護補助体制加算等の取得。
- ・ 医師事務作業補助体制加算をランクアップし、診療報酬の増収を図った。
- ・ 省エネ対策として平成 22 年度から ESCO 事業 (企業が省エネルギーの包括的サービスを行う事業) を導入し、省エネ対策工事を実施、平成 23 年度から運用を開始した。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
診療報酬制度の研修体制、専門的な知識を有する事務職員の養成等、診療報酬の適正な収入確保対策を講じる (施設基準の取得等(診療報酬の確保))	【今期の実績】 ・ 特定入院管理料 (NICU・MFICU 加算、小児入院管理料 1、新生児回復室入院管理料児童・思春期精神科入院医療管理料等) の取得 ・ 急性期看護補助体制加算等の取得 ・ 医師事務作業補助体制加算を 25 : 1 から 15 : 1 へランクアップ	88 (82) (75)
	【次期への課題】 ・ 施設基準の維持・拡大	
省エネ事業による経費の節減	【今期の実績】 ・ 省エネ、省コストを目指し、ESCO 事業を実施	—
	【次期への課題】 ・ 省エネ対策の実現、検証 ・ 職員の省エネ意識の高揚	
患者家族や職員に対するアメニティの充実	【今期の実績】 ・ 院内売店のリニューアル	—

(ウ) 環境改善

- ・ 医師宿舎の建て替え工事を実施した（平成 23 年度）。
- ・ 院内売店をコンビニ形式にリニューアルした（平成 21 年度）。
- ・ 医療秘書を 12 人工から 18 人工に増員し、医師の負担軽減を図った。
- ・ 看護師 2 交代制を導入した（平成 23 年 11 月から試行、平成 24 年 4 月から本格実施）。
- ・ 院内保育所の整備計画を検討中である。

計画実施のための手段	中期目標期間の取組概要	実績表 NO
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (医師宿舎の改築)	【今期の実績】 ・ 医師宿舎の建て替え工事を実施（世帯用 20 戸、単身用 21 戸） ・ 院内保育所のリニューアル計画の検討	98 (92) (83)
	【次期への課題】 ・ 老朽化した医師宿舎の取扱いの検討	
医師・看護師の就労環境の改善、向上を図る (医療秘書の配置)	【今期の実績】 ・ 医療秘書（医師事務作業補助者）を 12 人工から 18 人工に増員し、医師の負担軽減を図った。 ・ 看護師 2 交代制の実施（H23. 11 月から試行開始、H24. 10 月からNICU・CCUを除く全病棟で導入、 H25 はCCUを除く全病棟で実施 ）	97・99 (91・93)



(医師宿舎：世帯用)



(医師宿舎：単身用)